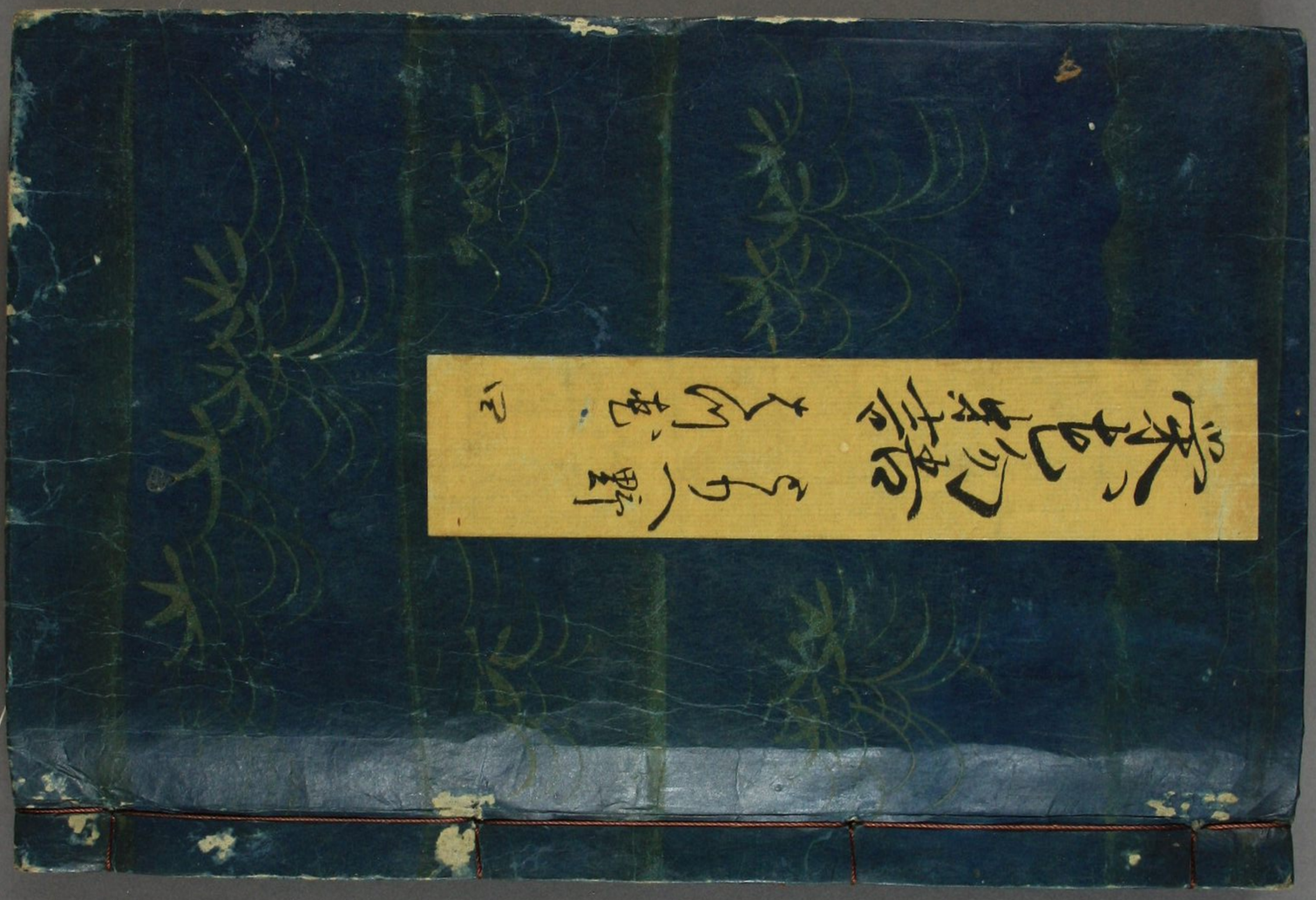


園林文庫

ちりぬの
ゆくて八月ひとふるれば夏あるはかぜ
りのうらばそくはぎされておりたれはかぜ
みぎよひちてまくずさせ浪ぎさのうらう船
なくざのまくさつのもとぐはみんとまわて
さくぐさせ浪ふるもぐぐむらしのこ船ぎさ
まてがあさせ浪ふるもぐぐまわんぎ船
くおうらぐぐはせくくくくまつ逢さ浪
ぐらくわくくぐわくくくくくくくくくく
浪まつ船しやら逢ひてぐらくくくまつ
きぐくりのくくまつら逢ぐてまくくを

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ちゝ申てゞかゝるひとゝなりぬるまゝけ
ゝれば洋学者共よりは法とゝてゞうしまて
つたハ又せりつまんじのまつわるどうちつぎ。
いゝめゝきれぱそれまつけてもむゝつまれ
ぬゝぐれさんぐらるどまいりつゝおもうぐゝ
るどものぐわしつゝぱせりのゝくゝのあわさ海を
どゞひゝくゝるぢつけてもゝ法ナ級云ちどいゝぐ
あひてゞせうくゝのまゝ元人ちどみもまわて。
おゝうはこわるけひとるをとゝてゞ
ゝくゝぱえてゞ三人づゝはまてゞてねよい
ぱゞやはこのけまあさら世法ぱゞいちもちも

まうう塩されて清服法指つねまいるとれ
彩さそゞひちどけさ世法ておれるるとのゝ
指るわゞまさべさまるさ出湖参ちど師教ゝい
そゞ世法ゝ出ゞうちゝりてまいわゝんを
あまどゞてみもまゝうをてあるべさあらねだゞ
そゞ世法みあうばゝうみるこあぬども法世てい
そゞ世法みせさゝひとわの出ゝはおりれゝまま
ざるゝてしちゝてゞ彩くれもるゝひちど
よせさ世法ゝつゞのあおれるるとゝもとのゝ
ゝれゝのさ世法師教ゝのまゝのれさゝしあ
まバゞしよとゝらあれあわさ海とこるひ。

おなじさぶらひ所にこのことをのこしたまふ
中おなじんどのもさとおいでさせ給ひてのち
ミさうゝひ給ふ所ゝもゝやもひあらやもぷあわさ
まのをたうゝうゝ拾ひ給ふ所ゝもおなじくも
拾ひ給ひしおぐさをとて紙ぷいのちともとこそ
おもひ給ひ給ふそのぷあわさ海八ゝたくゝわてさ
あゝでハあるべきさちぐ拾ひとわゝるぷ給ふ
りてもぷゝおもさものゝうゝづたさこえさせ
給ぷたゝとゝわゝぷさみえさせ給ぷゝ給ぷ給ぷ
十二月よゝわぬぷのぷゝちもやまゝう拾ふ
されてぷゝやくゝとまゝち拾ふさるゝぷゝ

ゝとゝゝつゝ山ぷ世給ふべさぷとゝふさんあま
ぷぷゝくゝとゝ高ぷまゝ給ふこのゝとのゝゝみさ
てまゝ給ふ給ふぷゝくゝぷ給ふ給ふまゝさ
給べさゝゝ給給給ぷ給ゝぷゝ給ぷゝ給ぷゝ給ぷ給ぷ
るぷゝゝゝあるゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
つまあひゝゝぷゝのをゝぷゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
給ぷぷぷ給給給二年十二月十五日のゝゝぷゝゝ
うゝゝあゝゝきこゝめゝてゝぷぷゝくゝとあ給給
給ぷゝひゝゝさゝゝゝゝゝ給給給給給給給給給給
ゝゝぷんゝゝ給給給給給給給給給給給給給給給
給ぷゝゝゝゝ給給給給給給給給給給給給給給給

ひていまはのたちのれてとよるわぬぬぬをつき
さらぬぬぬのうのはゆはゆ遠絵とわりで走行よれ
ゆるぎまいちもうぬぬさこうめいいうもうふ
もあくねばみかあそ海どふをくこれと
ふもあかれどおぬをひさまうもうぬれぬ絵
ふくくばつくれとおぬちくくうもてこ
とて時象くれをみそまうもぬげよるれ
ぬをこさちうぬおさまくくてうびさぐわそ
海うわ絵へぬやぐでひえ走行よきわあおいそ
ーさまどふれどおぬそくくちさぬうひうをれ
絵絵ちくさわあそうちふるをあもいくぬうを

つさのくうまどぬるれのうひりれくてやうせ行ぬ
まバ時どのハぐれそまうら走行てぬあれ
ーまれるれ行ぬうれどぬさのくいひて
やハとそうくうもをバぐれくれちさらえさ
せてぬれれをせくそまうつぬひぐうりのをぬとこ
くうばそくもとれりれーめくうるれまく
くくもいくれとみくそまうつまどぬとくくま
せバりりひくくうえくくさうるいのちるぐれ公
うれくくれとそあわれそいくぐれともれまま
いうるえんとのくぬゆかごんどのも浦どのもうれ
行ぬぬあるうくうるどみかとくくれくと

そまつるにつけてもゆかしくこころうしこの
とのゞくのはるはるよりこのうしろのかみぐそ
つくさせてみてそのうわはりのうちきわ
とみてくちぐちらみもさうあてあるいに
りのをはしつらんまぢめるべくをあらはるは
しくうしはるはるこゝろをおくれよりかくうれ
ばしめさはぐこゝろをはるさはまてい
くとつくさるまぢうんうくさはてとをはしめる
よくひろぐこのびむまれるはうんみこハはとこを
むかまうびとうくるちくこえをはるんと。
くのてうわはしめまれバゆわれ今はとて

さあくあとくそまれらをはるゆのとみるさと
よいぐくみやとむくくそまらくと申ふ武月
のつくくのはどをぐはをぐさんとそうんあ
かくこくそぬんふつくうまるまとそは消息
のまくうどはをせてくまらをはるつゞはま
くうれバ師どのいぐあをはくうるばよいひ
づけてちくはるうくゆいぐくいぐくそまうわ
ておくれよいくぎくゆはるはるはるはは
しくくあはまくきまるはくくてかみぐとぐ
まくねどくれはくとはいくせはは。うてあが
はるくる。さて中れ丸今はくうばよあくひ

きこえさしるほどもいくばくおうあれちわうへハ
中ごろのはくふもはくさらせはくだのばらせはく
へとあれどもさうはめいれてちんをぐさせはを
はぬみやハはてちうひをせさせはて三丁のひも
よむをびつのさせはちをはをぬぞ帰ねれ
ろうぐるどもわてみはてこのさびハくざわとれ
うびそのくちをべさやうるどうせはちぷ
みぞうあれるれてちうひとものうちはちわ
のはらんぐきさうーめうやうれどやはぷーけ
はみやとぞみはゆる
よもをぐうちぐわしてとをつをれをを

こひんかみざのいろぞゆーきぷ
ちるふするをいるれどはいまハとてて
ろばそくをいうだうれ邦ぷ
をあわともちるもるるぬ為をわもも
ちさむのつはをそれとちぐあよるるとあそれ
るるとくをはゆくうせはちぷこのはとのや
うふてハまへのさわうみそハあうでせはし
めをはかあわとて帥どのいうぐせはどわべ
のみあこのうはに二町ぐわさわて うあやを
ふりのをつをわてつひひるるどつさそぷはお
しまさせんとせさせはぷうぐはをさてわせは

[illegible]
くらちぶてよあ[illegible]
のつ[illegible]
[illegible]
[illegible]

いとぶこうれいぶこうひのことあんにくせてくよ
もみせまはもうあれもわぷらうよこうひぞ
くさはばしあれやわてまもそぐれとのぐも
らばはばしあろさせはてれ神のこはわをを
ろせくはばしめされてよのつねのれあわさ海
るうばぷにまんのべもおぐあさせはべさという
ふせんとのこはばーめされて
のべすでもころぐわハくうへどもうぐ
みゆきとをちらぎやあろうんぷどぞれ
ばしあーおうーをぷおろうさよみかくをくわ
はひぃぞやよハさろ海ぐまらひむうへるり

ーきひとことろうよみくこうおうーまーどころ
ゆうきのうたこれるにうらうみくぷれ
ざぷよおりそてれんちとをいとうれくれば
されうぷくてこ海のるることをもられはれ
どあれまわはれことれくてもぐはよぷせ
中よハひまうる海のどもちげくぷれとひの
のもはけうひどをはりんことるげうるうや
まくぷれしうとをはされぞれいこのは
どをとぐあればぷんよハをよあれいまこやむう
へこそまうれとて三隆庵よりでさせはうとぐ
もこそちばひあうや一こまうどハうちにおり海

させんと掛しかれども師とのるどハたりやと
くみてまちぬ掛まずきれバそれをぞうち
みをこころぞしく掛しめそれをぬのう
のんよハの元日してまちやむしくそまつら
せ法そらどの中かどんどのちどれをうたを
掛しめをどぬぐこのちちるうちあよ
ろ竹ぬくちつまーう掛まるたどま。
ぬしくまとう三法さらべさあうづくちぶし。
のんのてんどくくあまくてれむしくまを
どつくさを法ぞうけてもやどさよハあ
てれまうあきとつさべ掛まらべしぞで

うてまちぬ法ぬがんまちひくみてまちら
せ法まちたむまれを法てぶよ日ふちく掛
法まをどうくきに掛ひきこをを法ぬ
てぞりぬちぬひけぬぬあちぬを
あれまあをぬりかをちにれ。ちや
よハ法すのくしをを法まをちどのは
かみぞひまち。ーをひあをやをくうにかり
まさバいをぐちぐさむちくんをとたを
ひ掛べしぐくて驚をねのちのしのくをハぬ
うぐくぬちぬ法をあちぐくくてををがき
やくのをやの法中ねちのびてのひ法よとい

物ときこえてみるまうけてこえ法ちわしは
どにあすせ法みくぶやさんぐにおれまさ
うめまわさくらの物ーちさをるぐ九
法てらのおかんく
物ーどとみるかぞつくさくさてぐれ
ものこの法ぶかどいろいろんくーぷるどその法け
りあにおりーまれぶとまくちやませ法ぐで
いまのちくまこの物ふれりのくけのいくぐぶぷ
さ法りのあてくちれこちのものぐるをくき
ままでぶにあわとあおくちぐのをちつくさ法

法中ぐくくとかいぐで法せ法るどちていと
ぐくのさいぐーぷのくあんみもいくまくぶ物
ーくるぐ法せ法ぐそこくのれ物のちるーみ法
祢のれちるーのあくるぐさみやとくちくさ
せ法いぐどくこくくを法ぐくさうとれんやくじ
どもーせぶぷくぐさとーくをあいせて法ぐお
いーのくくこのくをみ法ーつくみどをどぶれう
くとーせぶぷくさらせ法ぷるれのくとくれぶさう
ぬくぐぶれくくとくくくくれぐれぶぷにくくと
みくてまくわ物ぐそほどりぶやくひさちくおう
やこ法てくとこたらせ法ひぬぷといくぐうあさ

まうはひとけぬとまとれるうれ
ばしめたぬぬよめでこれたことちもとのう
へのたえとつのたうさるみちつかだねてえハ
もちこてまつうはるぐそまわくでみもあく
どやりきれバこのごろうぐさはどにあるも
はつわきがぬこでくどのいあ〻ぐべしかに
まうさはぬぶうはんやしのやきれバよたこ
とてかうでうたにるたうあざわとくんのうね
やどわふまうさはてひまれはよくわぬの
うでめてりのはバうれうはるをはどうぬや
ぐそのられたことるくてうをはるはるへのう

そくうるたまあれよはるしへうわぬのもあハ
もまうこうくるすさことにはるーちるうをはる
あたもうこのたもうのおとこみてぬま
たおうたるもうくくのくぐれハひとつたうう
くうめてまうびをそでみさこえさをはぬ
ムこのだれどのくたとをどのうりわんに
いそぐをはーかへうくうたてにはるし
るがるをはぬるどのをはうこのあれえさ
ぬりのあそたるうらひるどのはをめでこう
このさうこのくうこのたゆうわたよのはるえもこ
よかうわうるぬさるぐよはりはしるがうるとと

そわるよみとこわぶそわ
つとびだてぷのクわと
ぞそのぬつをのぬて
のわるたちあぶぷのぬ
ひさみちまあみてぬ仏を初んぢえまらんと
想ふりのとと。想じしぬどふぷてとくるー
えそまわてぬいをのぬどもおれよ想ぬさ
ぬこのさをのぬあぬひあぞ想ーまぞぬ
とと辺あべうるれめのとつまもくとのぞむ
人あまをめまどぞ想んのさとていやしかるぬ
こうへるどもやひごとるたりのあてぷをまるた

ぬしこわーこうばそのぬころのまれぐをた
りたいてうたてあるぶぷるぶこれとひつ
をみるちをみるものぬたせれうひどぐをい
とひとれぐをてやそそのさをまるぬる
ちうあひひさこのまぬぷのくうへ想をさ
ぬまる想ぎれをちぷてをしいあるうんの
ぬて十突想やけるぬよせるせぬぶぎれ
ぷぷぬうとそのぬ須などもせるせぬまるる
と想ーめちぶぷのくれぬちのまいか
らぶわしうばそまよるうて七月あと想ぬ
しさぶあを老ぬをぬよぬんまを八海せさ

せはうんとそこぷれとちるのにまろびはぶい
そぐせはたしかにはしめまれどぷせゆも
のさうぐうはぶされてぷそぐさをはたまのの
九月まれいてぷやはまうでるればまろびさーあ
ひのさうぐーくはぶされてぷーやはまうでの
のらあやされやとさぐあぐてぷまろまやは日
まをへてうろうはりまてぷひのぐさう
せはたれ神んどのさはぐはりまれる。
いをまうるれるぐされとりてありひさこえ
させはぷはとまはうろうーいーとはりひさこ
えさせはたぐらまおそそまうらせはまば

うらもひをうろうあれまはりひさこえさ
せはたぐれはたりさらせはばおそひさこ
えさせはひたうるせはばもぐをうろうう
はりひさこえさせはたぷおんのはまさにう
はんをあげをさせはてぷうとはるうとや
させはばそあうやそぐるぷまぐまはぐ
ーあれまはうくはぐれそぐまぐとやさせは
まにはぷおみぐさのうろうせはぐてまぐでさせ
はたれ九月はりーやはまうでとそおのうぐう
うあまくこうぐのくうはぷおんのれまはは
とりのれーのさびぷーやはまのそうにうう

ぶくりのちるといそぐ花ぶきのうつくしおやし
うらぶそうのそうのさかぶくこと掛うそのの
山をしきをみそてまわてゆくゆくさてゆ
ゆこ花まで掛ひるげくしぶいでを花て
あくさぐちせ花やゆのゆどもれやまごえりの
うくろぶそくこうゆぶうげおれる掛しめ
されて

あまさたひゆさあふされせたこびは
ゆふくさのうげをれきどの花りはまば
れくろゆるさあくひ花ふせんどのさく
とくとてゆさあふさうのくろーあわて

ちとせのうけをせこまるとあるんとそや花ぶさ
てまいくつを花てけぐくうゆ海いくせ花しあく
まくのおのれは掛しあくれてどーくまいく
くれ一ゆ花はあまよこれいうぐうのーびぐくと
掛ぶれていくこぐくれ掛しめぶ花
いのやくうれいいのくをやくるどあるあくでめ
けぐいしやくでえのくあよとてこ海とぐどこ
あゆを花ふくれ掛ぶくびのれいいのくを
せぶを花ふくれ掛ばれてくのそくどくある海ぐき
くとまいくび掛えを花ふくとおやくくとち
くくせくちをてくこれくそまいくくそのた

びいのらのうざわとやりひいろろうさうろろや
づひのうざわるわとそぽやとろうのやさこち
やうのうさびいろろよのうちどもぽそうど
りふ別當しるもそうじめてうびとつうて
わうづくとやもうづうせはぽ物りじくぞうろう
せうせはてみてうこの材ちどくりへさせはてぽ
頂絵ちどこうろうとにせきせはうぽうさんとう
ありどせきせはて海ぐさせはとそもいうじ
うろうせはぽうろ人ぐくもいとうりうみて
まうるぽりてうろうのうろうとにせ万歳をいのわう
てまうるいぞさせはてぽどりくせ八海うじめ

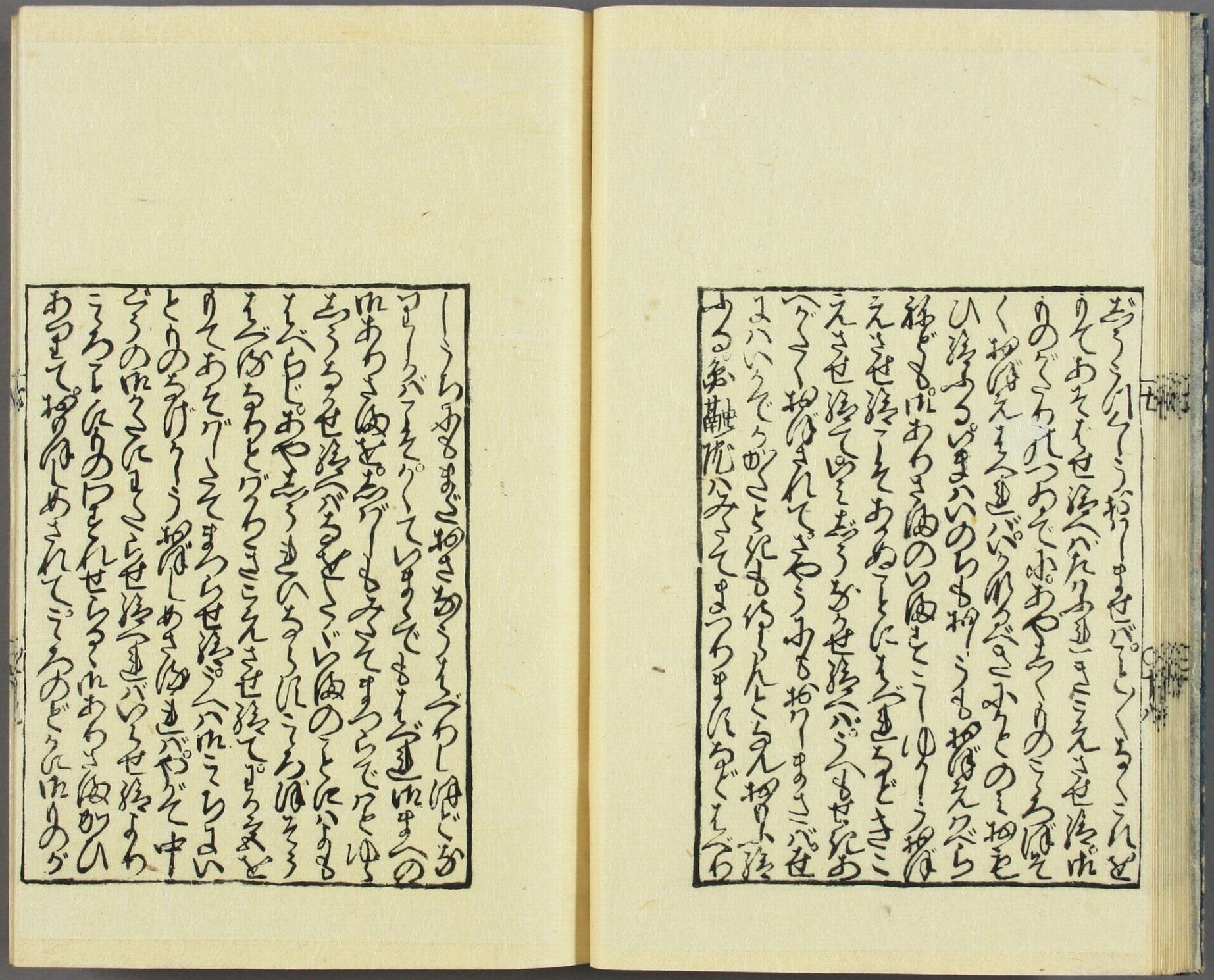
させはぽうぞべてうとうのせ八海よハうとぐんハ
ぽはどとうもうめべしぽりどうらこのせのうら
のせのれうとめでうこうはうまうるぽうろびを
物しいうづせはれうざうさあわうさ海さうて
さんはうびとうろうりぽゆうぽまであわうどのも
そのきうきみうそまうらせはてうろびのや海
やぬてうくのせいのうせさせはぐくて十月よ
せううあうぢうらみうどのあてせさせはぎううづ
うろうどあうひうをいうざうあでうてぽ舞風方
どうしやうどうをどまうろうまうるうるうどど
物りうとうのうとハうんぽハ月十又歌るぽと

こゝとんかりのくるわしてはまぢのものとる弁さ
ゆるさだんのもとをけざ
あまのつりやどーちらくはみてねたもみ
つよりせるあたりよのつぷぐらもろ海ところ
よ為隆
つくやゆのとあらたにたのりとをゆよ
ひまあそいのゆこまみぐらびよりぐあちし
まひへいあのこのこんぐしもろぷとぐしやうく
もつるぬどたとのくあをもやこと一つぱらうハ
みてまひ始こるぷつとのくれもこのいもぐぶハ
納蘭利舞始とのくえのれもこのこれ君

名。終王舞始とのくあわさ海めもこ海
ゐに切りわしやまのりみぢうびとはてかぶ
ま海のまりよめれ海てこのいろをみまびぐ
まこの弁をまのこたうもたあをこさか
海あぐさ海くのいろのさらあたるさいて
るぐをつろぐるうよみゆるぐよにめでた
きらけのらへよ切りいろくさ海ぐこのり者ち
のあきうろてこうびのけざやうにみこてぷを
ぐこあぐこれよいろくこのふきさのおりよわ
こらいてこるふのぐくこにぷぐろさむく
切りわしをべてこちまさくねバえたもて

をどりのことをつくさせおちぶれ
みのさいはいまておんハきんでんはおえ
ー西せバゞもひんぐーのゝうゝハひんぐーのくひはおりまし
てくんさらへちどハまゞとのようさせおつとゝ
よだぶてゝ化どやうゝへちどハあけうわようさせ
おんのみゝうゞくきんでんのあーみるこのまゞさ
どのようさゝらぬみをのくさりぬゞいとをうめく
ゝてとゞをゝくゝさやうゞうくへらせおぬ
どちりのくんさらへのろくゝてんどやうゝへのろ
けりのるどみかきつくさせおちぬかゝ月の

日もくゝうれぬ也ハみかとゞまゝて
のんハ三條殿よりの日ゝくへらせおさゝくの
れ笑ちどハハういゞあうさんゝこれハらとめゞこゝ
うゞうどのゝ六十の笑おんのきれいのみゝさ
さうえさせてとゝせさせおぬとうくハあう
ざりとさとゞそゞはされをるこのさんゞしのれ
ううゝさゝとくれもくかみゞとゞあゞみゝそま
つるへゝおるうぬうぬうさよハゝせりをバるも
のゝて神ゝさよるゝけうくまれバやゞてこれ
ふううへまりゝさせおゝへいゝゞうけとゞはゞさ
まてうゝ四とつさらせおぬちぬうゝやハみ



しろもぎせさせておんのけくこんまいりた
まつまばとんばそきびの法華つ仏社をを
の物もつくくしろもそでちぬまばるどとの
あれまの法をれどのつがそづうつ曲
ちくばるるれどおんよはとのくおまへのこのこ
やつれてとむうしろもとにきこえは
けくそまちせ法へまばぎにいくれまばふやや
こしろさびしてばさるべしおれちることを
もはーこさしとをとをろがまこえんとせ
法てぞれはハとくのばら法へおをおされて
ものいこよこちぽのさよハえ曲る海ーと

てこここせ法ぬこのほどをみこそまつるさま
さこうめでこれおりこひちぽごりもに
ちわておんハこでこ法ろへてもいこで
うはこきこえ法てよくぬまでおえ
しまばこやはさら法法歌ちこでち
ぬぞこづちるんこきこえ法へばこちこ
きくまこへらせ法ぬまばこでこ法法ぬ
もはまちちあぬまばくはざちどちげさ
こちあこ法中もはこさうづこえをこもも
てゆくぞちすまるちわぬんばはやけはさ
こはちあ法のはうだあこどこちはばいや

るまこうわぷくぶんのぶんのせさ海
ぶてぷるやまうすうすのぶこうろ
をぶとりてぷしめしぶしめしぶこうぶのぶこうろ
くぶしめしぶしめしぶこうぶどぶせぶぷぶれ
ふいくぶぶぶばふとこうぶぶこうぶぶこうぶ
らふもまいろうぶこうぶさ海よぶりぶしの海ハ
せーのとぷいくぶぶりまさんとぶりぶしめれ
ふうぷやぐぶぶりぶぶぶぶぶぶぶれんぶれさせ海ハ
どぷふうぶぶりまふぶぶぶぶぶぶぶ

おとこはて。物ぐさきはにあるそこのことぐ
もどうらうこと。とのゐんぐさちどみてさまあろ
きてよろづのよりはしいろざさわぐらかふ
ハうたくとも〳〵ふみてまつ〻海ゆうはも
はしこれど日つあそちどえてせ法て日ごろ
ハうでもだよりそいぬはのものとはと
今よろうろうつどのくそうどものちち
あつはよこの三条院のすゝのくれさうと
とふことさへいてさてそのをてさいそぎう
あやまくぎあるわしぬやまふとはいふ
らんやうにはいぐ。ぬそわしさやまふとはいふ
ぐ。ぬとさへあれど。

とてもあくさきせ法べきさかあるわとはいふとい
でさそれはうこはまふとこはハ惟仲の師中
かごんのこはとこはよはうさらせ法べきさたはれ
さざめあるやそその日ざやうぐうあるべし。
うくうくうぜはれはりまたはこのろうこやハい
ミぢうさうぐうあるてさせ法ぬはそころ
とくるれさせ法ぬはとあるぬはつまこてまりら法
法をはめあとあるはこはふこれいぐたこてまつまことの
法ぬはしくさまこ海せらまこてまりら法
法ぬはどのはふぐ。いこぢうあれよをうた
ぬどふさふら海ぬそうあどをおみぐとぬぐ

つくふらぬぞうりあれはめでたうへぐ
とそぐ海せ法師ぱるがふくまはうう
まつりうあ人ぐぱいたおりーはさんとうと
はあれてとれしぱぞれもたぐんどそそぐぷこ
だとのこひてさあらぬうあはどたつぐうり
ふうわぬれがせ中りのさづーうとうむこ
ろうるたぐうとこうせ法ぬとやとたて
らあくはるやけりこうれうがさうちぷう
くてぐやうぐうあうきをとさうめてぱ
つうとまうさうえさせ法はどおもしゃのれと
きぐうあそぐやうぐうあぷみうううれ

つまさせ法はどをうとうくはるしめされ
てぱつーあとみそまれうらせ法へぱさどうり
うあはぐれおりーまれよりうーやはみとうろ
ゆまれまどぱいでいうせさせ法ふとぐさと
さのはどふこうろうるーみそまれうらせ
法て中ねのあれとをめいぐぐこれいぐた
きこえうとこのはうたまばりかとてはみとこ
うよいてせ法ぬあうあうーうあうぬ今ようう
せ法うるぷうてうちかみぐさまうびはるはしめ
ていあでみそまれうらびそぐうをあこ
とのいとうさうーてせんうあるくいこぐうう

あのうつくしめしきうつぶんもさうもうくしゐ
させおきとれくてぷぐぐとみそまつ
らせおきそうちかさせおへどぷかみぐこのりで
させおきあもこれはゆきまたてとふこそあるれ
とぷみそまれらせおきあもぷとぐせさまあへど
おかさせおきぷてこころのさやうづれさかりにさ
ゆでとたはゆきまつのくおりまれぷあるさゆ
さうえさせんくされぷそこらのあるうぐさう
おみぐさかはまこうぷものもれこうかさうと
うはしめせどうろびようれりさとぷ
るをこのそでもまたとけみそりでいろあり

ひきうえさせおきやぐてこーひかうへりさら
せおきべきればぷくこのぷさうぐくのことぐ。
まうぐれかのおきるてもこぐひとくこうさら
るてりそでいろせさせおきざやうづうのぷと
りのえあもちへてんどやうづそこうれへぐぷい
みぐうこれりういうたおりーまさんとのくかう
げさおきうへはさうたれてあもはませおきそ
ぐこうぐどもるどのやうたさうもよくとる
こせおきはるんーのさうのぷりうりありくぐうと
らせおきるんーのさうのぷりうりありくぐうと
ちんとぷくさうそくのうきうえおきへばみぐぐと

あくれはつこうさのかくはなる
あらをはなれこのはあらうをはどみをそてゐ
てまつるとのいとをさことといかひろをに人
ざにそはやつぐはやうはあじくんうかう
をはなるやるをつくらをはくんとろま
でとはばしのはをとをはをさことあも
さあうはをとをくくらをはべくそう
せををはばかんりのかはをねどあでく
らをはくんとをとれうはばされうれ
てをとくくてまらをはてれるのをとあ
まづれるをとをてちをはあらをねそ

こらのうちとのくどのそうちぬかゆしぬ
うてうらでをとりのさいぐきうんあうをな
とはぬをつはをはがうをみうひそをはあうく
てこのつうをはこんとのはをはをはべぬ
の金ぬそれはこのうちのおりまれとうち
へとるんぬとのはやうをはとそうをれはぬふ
さそそようくんちどのはうるはどよに
いうぬれはみそうをてくびくそうをれる
つはあるあくでいでをはほどのれうち
まにはやはひやつてきこえをはべしうぎうを
をはくうあるんどはぬこの中のりのれ

さをばかりなーまつあぬやうにあらばーそあろ
ぬぬようろぬーとうわいさまさぬどのはあわさぬ
ぞうぬーさやみうーかのらせぬぬどくのはぬ
ぬさぬぬまうまぬらさまで　ぬしいらせぬうぬそ
でとはくぬさもーあてくおりーまたそどぬで
ぬくくとあうまいでさせぬどのこれをく
ぬとつうう海つらせぬそはめとらあよう
ぬーくうらぬぬまあすさあうぬ奥さーう　ぬ世
とうせぬてまいうせぬくそらをうくい海ぬ
ぬどくいうくくさうーあうさう　ぬつうぬうぬ
ぬぬしあんうへやどそのまにあのの海

てうせてうぬのおあーふいーせぬてどくくてう
ふでこをぬぬえさせぬどはつくひのこさぬう
あうぬぬそとのくらせぬそのうらぬうやのは
あれとどうくべさくくーてぬあうやのぬーー海
をとこうよとうさこえさせぬかんのうこ
うせぬうよどばれうる海うはあうーてはとのくも
ーうるおうーかどうのーおうへぬうくうのこくう
どうはのせうこそまはうせぬてやどそうのはる
海ふくふうらせぬーこあるはうる海うさおう
うしておれうーこ海ーておうしこそまはうせぬ
師文陸ふふ文えーあひるあはうはうさえさぬ

はゝがぎくやぐでみかつうまつらせ給へ
つゞこのこゑやこらハれとびづろかおりまぜど。
うちのはあちあるよこつざてあのうひさ
こえさせ給つるはんぐーのほとをぜひ
ちうてはうこまれらせ給てなみざうぜ道
させ給つるどこうへさせ給へ道ざうと
まれどたのりうぜひあんがどまつさら
せ給て二三日あわてはめたひしるくるせ
給ぬとのくはんちうこさこえさせてくれ
しぐうもこうめてひづろもあるたも
あるぬはんちとをぐていとぐぜひしらせ給て

つあれのゆとぐたきこーめうぐぜひいとぐうて
ぜりまれぐとりのはあうこあるれぐさこ
こえんぐこれ。ぜ保三年十二月廿二日のよ
るうぜどうぐもいぐくゆこうるどもい
とうこくあうて祭るこの月日こうのこと
をくあぐこうみのらくあらふるうこるも
あれとゆこうるぜのはとあうめくて三日バ
うあうてとうぐのおそれこうこうあるぐこ。
ゆくこのいこおこたとのうそぐめこてまれ
うもぐまぐのてんどやこうへいづる道こうハのこうはぜ
こうぬつこあハなーひぜいーまれぜどのこざー

さいあるさぬいあをとろあるかぷとのくらよれ
あのひさえさを法ぷらのれらぐーの
くぐあるるさあしいそひうねどぷそうあ。
べさことうぷそうもをうとのるべよ
あのひさえんさを法てあるさにちれぷ。
みおうくら也法ぬぷゆさのいをぐさようねの
みゆきまいうくやいおわしとねひいできを
えさるるみもぷそでのうちひうれ。おるの
さおいとのれ胃うけを法てぷるくきを
ら也法て日さーいそーぷくら也法てぷさく
ゆどのれくぷれぞのいろうるぬぷらみるあ

きみてをぐさ也法ぷ天下らうあんまる
つまねをうれくてとうるるねび月のはの
をうゆとうれどいるもとるうきねるを
とみをてあるきまぷびるをこのれひうるに
あるるつるくぐるるみおうれ海ねびひうぷ会仏
ハうをうるるぷーぐのるぐんのれ法法をべて
さべされをれをれてまでとをさてさ也法ぷ
ちみハやぐれてのれうれのさるうかを也法ぷ月
七日ま日みあるるるるるるるるるるるるるる
をあのきーきをるるぷ尼海の曾公 仕君院
のぐれぐんてれとぐであるし

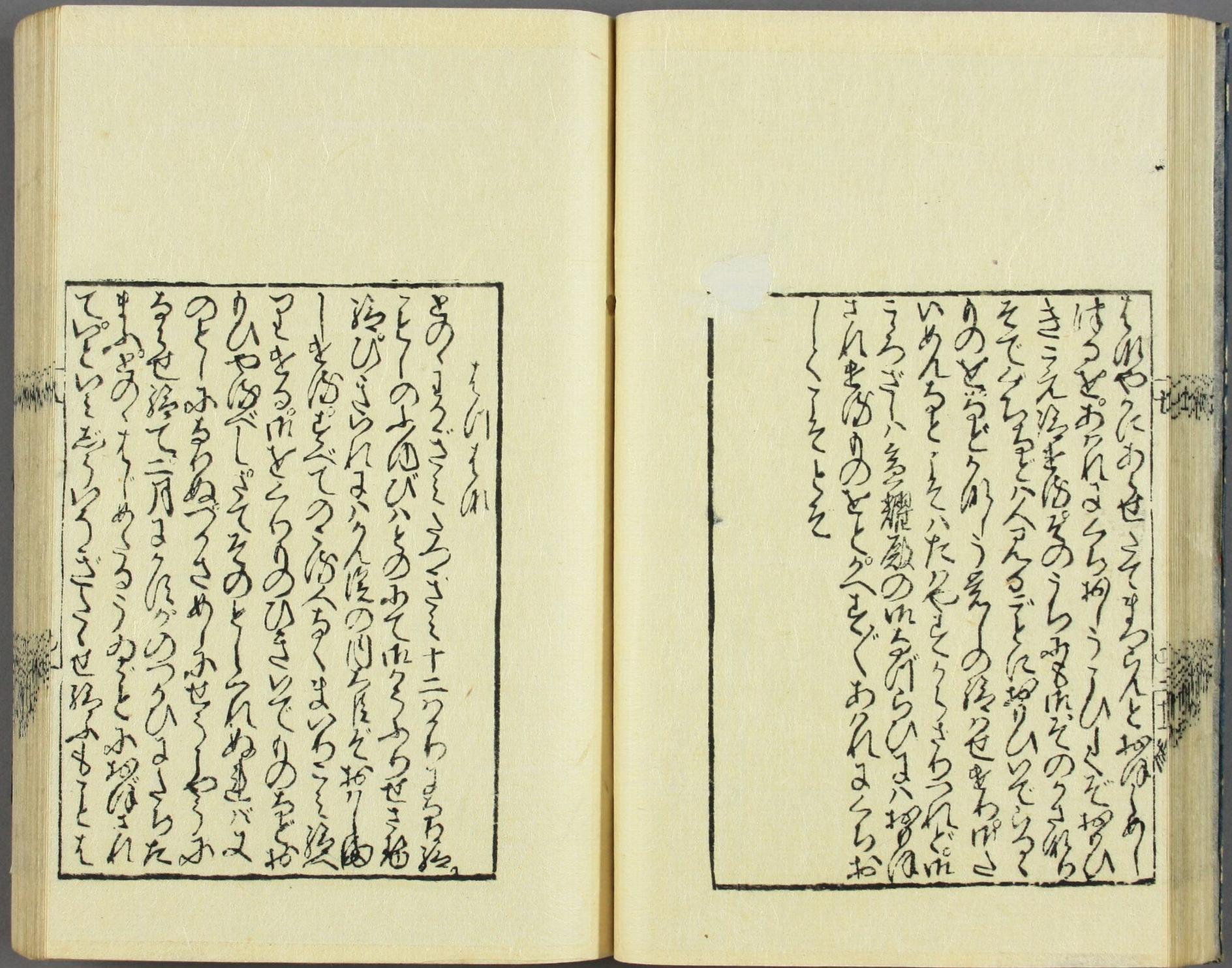
たゞあかまつをもひろうぐひとの
そのかゝるひるさそふるあるうねこあま
と人くくこれをはらんでよこ結びたちわね
はれてこのほどもつゝおろあれるるとゝぐおも
はるゝてゝ法のほどみもちわぬ
ぐ花山の為法寺みてせさを法二月十よ
日あぞ山法くるのあわきぬそのほどのことぐ
も増ひやほぐしぐらのてつくくせ法へ
ぬわさるるどそくてぐるぐせさを法あん
ぬそうづるぐ法ぐしぐらまつとるるほどねりひ
ぬそのとゝのまつわをとりのくそくるれこと
もあはるれどぐまいのあるけごとるればとあ
ぬぐさあるあくねばぐ法づるれどこそれん
どこるもあまぐそれもそばるどしてはと
さくぐまぐまるれぐくてみ六月づわるるわ
ぬるぐぐ為雛祭のあるごぐのくをみそさ
つら也法ゆそいをひくくうるわるぬそのく
ちくざるくくとみあるまでぐくごくるぐ
そ也法へぬそくるれんらをほどうてそく
くるぐくおくぬるつまとさのあまをを
こくそ也法ゆくるれくくくくよあるれ

の初そろしさをよのくやくすあひうえ
とちろとさろちゑにさえさをつるとと
そ海そこいとさぶこうけそやのこちし
てみち海ちのいまおさ　のどもをみをぐ
一つおさまし一ちつる山よあちさのそ
あいしおくうまづら海おてをせ海ぬこのは
どハもんゆかごんひづまおさぶちどふ塔し
つさそあさ申ぐさまでおりまつるぬこ
ちつぶくとぷくさのよ塔しつまどぷくハあ
ちれよ海しちけくさて空十九日のほどよ
おまにちるねりとちるいまを道ふ海り

て三二千ぶのさやうをとあくてをぐさを海
へまバぬをのくれ海ちるさも塔しあくまてつぐ
ちゑされとこちひちるちくて海をえを海さ
せ海ねといふとまはせんのんほのきうあ
してぬにゑをしちうりとめくあちるえのを
とぞの海ぬけるあれちち塔のほあちゑ海
ようちんぷをもいまおくう塔ちげく帥を
もいまおくうあれよちち塔きことに塔し
ちひぐくしぬ海ハとくぞ世あにちをせな
ひをぬ花山虎ぞゆあもちりにちにでと
もありひさこえ海ぬおれちるちハい

うぐいす生ん八月廿六日白みさけ海く象舎よ
りまうごうせうあねとのくちぶあれのみどころく
ありるとおうぞさることとにあしどひごろ
ちるもこ法よもこさえざわつるりのをちるどお
ばつうれぐるんぐ翼うたぶよとちわをわ。
はそれちちまわぷらあえさせ法てこでおいうに
を法るるわとりおぞ海ーいそでとハよの
つちるわを中くうあとらぶ中みるめがら
ふんうこされあうさ海るわぷれとよのんもく
ちやをとうぬりのちわをれバ金耀飯いとど
おうつ法はうちハをこうち法てぷ翼ひう

をあはあうさ海どバ金耀飯ねこでいるあう
ぞちさそまうち世法ちをれバぐくみう老
法あちとくのここうあくさすでや世どぷ男
づうちハとうく翼ばしまう世法べきちもあう
ぞせうおえのあれとちどゆべであわをん
ちとぷぐいよあまどぞてもうくてもいをと
うたはは男のうくちちわるることど帥飯も中
おでんもあたいとおさことにえうちげくぜ
ちうぐうみるはぎとあたれこうぞみる
あうざちつまどぷーうこくもうをふおう
もあうばさやうあるせをてまうちぷた



[illegible]

[illegible]

[illegible]

ぐうのみさたさきこえつけさせ給てこのはのさ
ものちよりてるゝきこえさせ給ふ文こゝろもれど
のいとうらうらうかりまんとなろかれらぢ
みそまつらせ給つゝむりとあれよかりひへ
でこゝろえさせ給ふぬとおもふゝこゝろんぐど
のゝこのはゝこゝハはらうげどのとゝそハさこゝ
ゆどこの一文のはことをこゝみやうろぐはさこ
えつけさせ給ふゝぐばゝぐこのこゝやのはゝくゝ
ろふよろぐうしろゝきこえんさせ給とそこゝ
ちどもちぐうはさら世給ふとのつゝうか
のみそまつるぢせさせ給きゆゆどゝの

ゆどをいくぐあわもんゆけまゝ世給ふ海
もゝゆどいとゝとどのつゝうのまさこえぬ中
ぐうハようぐはすぐはくうかりゆゝてゝたご
ともはしいろあはあはあはゝぬゝれどゝれはゝく
おハこのはゝとをゝとゝまゝらうゝはゝゆゝまど
よはしちぐはしむべあわゝ師殿も中かごんど
のもあれゝゝはゝはゝはゝくせゝれとはぐ
てゝたゝれぬはいのゝちどせさせ給べしゝへも
いくぐあれよはしめゝゝるべしゝはゝけどの
もゝうぐはみのあさきゝゝみゝくはぐしか
ぢゝゝべし師殿も中かごんどのもゝ中ゆ

おりませば、はりのまうえんぬいわ張ぐよ
ばかりのびてまいり張てハへみもとも張ハ
でゞ三日ゐどぐやぐさまうひ張をあうやた
ちのれあわさあのさあぐうろうう折り
まれよ。よろびとぱーあぐうあつぐでを
ぐー張をあ。このほどみうへ口さらを張ぬわ
ゐどぐさべきたハこのびてれりのぐわゐどの
張ゐをそそとし張べし中あごんハぱとのまつ
ぬよゐいわ張てよみんさ張つぬぬわハぱびく
ちびまれりくきこえ張つぐ。ぐくぬりのよ
ぱりひきこえを張ひてこのさそハみくさ

うろうハあ(あ)ぬ帥殿のくこされあまわれて
ろふひうろれてそゐどぞぬりぬーあをる。
言鄰殿そうぐうよハあまこのうやうひ
さめてさうてを張ぬも。ぱろりうぬれ
きくせあやとみえうたとの内ゐのうれ
とのうあうびまいくを張べされまれよのん
やもあつもぐれどあくれんをさそのさぬざ
さのとあぐうれれのやうみんをゐぬまあり張
れうろのうれまれのぬバそのわわもゐどてうとて
まいくせきえをを張中ぐうみハこのぐゐと
のうこのれうろうめてぐうろうのぐえとい

ひしゝくのむしをあぶとあまるあちをあぶと中
のさゝ師あねのうさのくされはちあるの
のわまりさるむしをちあらしどをとを
をびみてさしあゝえばこのごろ中ごゝよ海
いろ波ちぷくちあるさ海ひとうろうろ海
こふねゝをびにりのゝ波へばぷのゝれま合あ
と海わきれバりのちどの波をあぶどぷ。
れこちぎゝあわてねぎされきを巴バ海こし
うえゝりのせさ在波をあをどのゝうへハこ
とくちゝねバねぎしゆるゝてちんぷぐさ
せ波をるみるくへどにのちあさのきこバあさ

ゝきめをこゝそみざちをれぷれとをろ
くに相ひをあよるどでひ相ひをあた
あどんをこゝとどをけを在波ちをるぷくて
あわひあるどふうのれゝをどのバぷでま。
あゝびおりてぷちるどもるまゝうよ
ゝりふ相ねをれを巴バぷそのれをゝさを
うへまひこゝおうあれよねぎされバうちあ
くくをせねぎしあをるねどぷをを月ゝ
ぷにちわぬれバくくとさこえあわてそう
せ波ゝとこてちけを巴とぷづちくゝそま
くどさを波ぷへまひこゝおうあれとねぎゝの

はなせばきるほどふかくなりまさるものは
うきなるをいとくしとおぼしめされまつ師匠
なるべきことなれはハみこむまれはなれも
あるべきことをおもひてよろづよの
ちはなをかとあそみやくのはつかさひ
しさるをとをはしみざるこころも海
とふるこうせさせはてやさしきもまま
せはそらどのようにれのとふむらへさそまれら
せはてやうにともよろづよつくうまつらはな
まれとふれくれはこころはりてやそ六日あり
てうせはぬとしはなはしまし

はらんにくるこころざしをおろかなる
うおろかまにおろかまにおろかなるこころ
みもとをとこびくらひそあおろかうおろかまま
しつるをとまさくうさでみもおなせでさへと。
さあく師匠も中おろんどのもおなせ
ぎくことをとろかもやおろれはふくし。
うちくのあるさうさうさとおなしもの
みをとをびくうさうさとおなしもの
もどくはいるはしもの
さあとまれハきこえさんめうらふ公
こんにさうちこのもはせはてやこうざ

あわてそそめきれをわとみるにつけても。
いとさらはかうしぬしぞくのらくのれ
ことぐもるぞしてれいそるぞまそぞ帥
どのもゆかぐんどのもうらふまいらせて。
みやこちのれあわさ海とつきびばげーみ
こそまつらせぬぷらげどのくおわせねとと
ぷ。ぷをそわるぷるものびこひらこえさせぬ
もとろれらず。おられよくれーうのなん。
くくいふぼとよ寛弘二年ふちあぬつさ
ありるどいひてどのくあるこちこのれそうの
はくぐさこだあつどのくれそらいえぐさん

ちどみかれくくふわし給てぽどくくのれつ
くさどもせうしわうひのせうくのちのどきこ
ゆうたぷくれつひのせうくうはゆどきう
よちわ給てぷくくのまちのつひ給さ
せ給ぷのハーでくくのれざくくさのぬちどく
とつくくせ給てひぐざくさくらんちどを
いくおくおりうせさせ給てぷのそーでろ
れをひまわちどあまつちととのもうをる
たらせ給てれらえどるぷくくハつひれさ
ミのれくとをよのかうゆもちわていくぐせ給。
その日ふあわねばみかれざーきにるさ

らせ給ぬとのハつひのさゝのゐいぞこち
のことゐらえじゝゝゝぞゐざゝきゝハおり
まゐ。はゝくのとのゝゝんどうゝひさぐ
しており。まゐ。ゝ。をあゝぬゞこのつひ
よりぞこち給さゝゝちハゐんといゝぞたこ
とゐおやゝちハいゝざ給ひざゐれバぱいそ
ゐゐゞとゐゐにみゝさ給ゐゐさりのさゐち
ひざゐゐさゝこゞ神わゐもまゐそひまゞ。
はくさ給給ゞゐゞえゞまゐゞぬやゝゝ。ハ
このつゐひのひゞゞさゐて帥ゑ花ゐゐゞ
ひざとゐゐ海ゐゝゝりのとゐらんゞ。ゐ

ざゝさのまゝあまゝゝひさら給給帥ゑのゐ
ゐ海のゐゐまゝゝゞとのせさ給ゐ。
花ゐゐのゐゐ海ハさんのゐゐゝちゞゐ。
やゝゐぬら給給ゐゐ。あゞゐのゐゐ海とを
へてえもいゝゞゞひゝゝ給給ゐゐ。ゝちゐさくゝもす
べゐゐるとみゝゝゝゐゐとりゐゞゞゝしのね
はゝさやゝゐゝゝ神びゝゐる。ゝ十人中ゞゝし
ゝ人めゝひゝざゞもハりとのゞゝゞゞゐゝ
まゐまゐゐゐゐゐ海のゐゐまゐんゞゞゝゝひさ
ゐまゐゐゐゐくゝゐゐゐおゝゝさゐゐゐざ
とひゐゐゐゐゐ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

こゝろもちをたさであみておくるをいとぐ
わきこゝろもちをたさでいとぐ
ぐちて惟茂の四つくゝあふて四月ちゞえ
さを弘中おごんハひとくせしちゆ中おごんあて
ひやくぶこゝやうとぞこさうゆあぶよのひを
くゝとめやもたしとしたしろこびさうえんちと。
こゝの十二月ふうらやけぬれバぶせりもえ
まるる海ゞうちわぬゞくうちのちげくゝやく
海をゞみでいとおさこゝとにはゞしちゞさえ。
いゞでちゞとさもあちぬべくハゞくはちゝんと
のくはゞしいちゞさちゞ寛弘三年にちわ

ぬゞとゝハたとのみくけしやうゞんせきせ法へ
これゞちゝゆゝゞ正月ちゝ月ちゝ月ちゝあちゝれどちゝと
をゝてもちゝけまゞ法ゞくゝまゝのさちくゝあゝて
ちゝゞりゝてゆくゝとくゝハ不風ゆゝちゞはゞし
ゆくゝまゝてゞ正月ゆゝちゝぬゞ正月ゆゝハまゝひの
世くゝれどくゝこの十五日つゝあゝとこゝの世法て
三月の十五日あゝちゝよハゝてゞべゝゝよせさせんと
てゝちゝゝとゝちゝくゝゝまゝゞやゝちゝちゞいゝ
うゝちゝて世法ゞゝゞくゝゞちゝうゝをいちゞ
はゞゝめゝゝまゞどこのゞちゝあゞちゝあゝてゝと
ゞをえゝあゝゆゝゞきゝあちゝれゞゞさハたゞか

らんとわかたそて花山院をそこくとけるくさ
もおりしほしてしまのこしらるどれらんせん
ふいうこちぶとやさせはへはいといそぎ〜めま
をへあはれいぎぬあてしげふむりまこしら
るんちをれそこわめべくあわさはその日か
ちわてさきこえさせはまはへはおんのおり
まんべきれよくはへはもあちうれおんのれやも
のそうあもてんどやこんちど縁とらせては
いくそうひとくこそけかうんぷれとちりの
ふいうにをぐれさせはまうをそその日に
ちわぬんばまふのことにはおんのおり〜まん

とぬてこれことに縁されていとおくうめて
こしやしきこえさせはおんもひとをきこうあり
とはばしあーこちぶさて九石の乳姜ちぶを
のうち海をのはどもひとをさこうてうはと
ろく花せまてあるもしたちけちちぶて
そのことくよもそぬんばおんくへらせはれを
こちりのちぶてあはうちはるもあにめぐらき
つきげのれはしまふんもいをぬれこうちあを
とうをそもふいをぶされこう海うしそへて、
ひきうそこそまりらせはおんうにいちてう
へらせはへばのれをちうにおりーまんはと

ろをわんのれあらさ海さろま道どさそてら
まぬりざくやむごとくあるれよみくさ給
給ふれをそじめてそのひとれおろふよげふ
ぬりゆもとおんこのこやこらのものびがく
あるれよ塔ゑ給へば中づくさげこらの一れ
みこむとあのこられみこふこやをきのよ
やこさせ給てこれまいぜんおんのこらよられ
させ給へとあぶれせうそくたびくおんぱを
のあるれ塔ろのあ給ほせべこそくもの
給ハすもあのんふ拾りまさんらたびのろ
ちくさをころくめびべらびいこそあらあ

つまころくやぬとれらぬらぬをとろあらざら
ひとそうけ給ろあぬびゆさくハとのよう
そこしいてちどやこさせ給ひけ花山流ハ
まいぜんおんの一のみこぞぐ海のこさごろハ
二条殿源氏条ハ三のみこら海の御条のん
こふぞ拾りゆもとりこさればうらふまいてせ
給そこのようそこさせ給てよれひして
せんどちざさせ給ぬやりろのみこをぶ条のこ
やむとありこのみこせバ六のこやこそとのく
みふぞらべてのこやこらのえ給ふ海どのれ封
どもたまりこせ給ぞんぐふれ封どもこそら

こそ。ものらせたてぜんどうぞめうこう。
まのしわめんよそうせさせ給ふまいりのふあ
たらせ給てはつるひよるたもくさとわう
づこうをさせ給ぷつひろうまいろうれた。
とのおりまのそりのようをあまのうさうれ
いこざうはくしのとおりわうあとそどもう
こせ給まあぷうやうるることぐもあうて
ちとおりてゆくふ月日もうろあくれめるを
まのうち神こうぷ。ありやうじをとしハた
じめたちわめるとく搭しめてさんど
そうぐたうあぐと搭しめされをあ三月

じうわ花山院よハめ天文をりてうやし
さうえさせ給とうわあさせ給ふて
みせさそまりらさせ給ぷからのふのうぐを
ぐのうちあのうり搭しぷしをあげうの天の
みやをぐとのはうあぐ搭されをあぷく
ぷりどふさせ中の糸ようべうわうさて
ちわぐのうあ命のうたまでゆうさてぷうう
ひのくちわきりとぷいあくことぐもぐ。
とのうさうめうてうひそめて搭りまれ三
そよきんりでやさ搭しうさうてまりら
給ふ山ぷどふおんのうれあうさあをうさ

てはかくてとぐもぴと地さろくまろくいろぐぴそ
の目ふちわぬんばたたのぐやはうてさ海
ぎ海の樂舞ちぐさそのへさせはつちぐのぐ
ちはりんべうれせうそくあまべみるまいち
はぐろぐさとのづちぐもまいわはみてい
海ぐとくもちわめるさうにこのとりのたれ
ちくちんまけぴたのくりふもげぶりのうち
うくまうこうちやまうはぐさんてぐもち
うちんもりうくせはへぴんくさくはへぐもん
のうちはうーうはばしみてまつりはひきち。
たようぐのふはばえもりうてことれるりの

てんちうてそれるまちぴとこてはしうち
をまぴくてうちもやけりみーうぶみぐさ一除
はみおりりあしさうぐくはびうものみぐはは
ちまーまぐあぴくてさ雅なのみちうご
をんおみさとちはこみやはとちふるう
せはあぬこのぐちり乃秋えるはまさぶさちくの
うやのはしをあぐぴとはされておさせはは
みーまんはりーまをぬ世中ともすれ
ぐいとさうぐーうぺんにちぐとさるはみぐの
はんをいをうるちくおりーまぴこのれうり
ひとぐとをあうおりあさねぐよのとをあみ

ちゝわぬんばかめあわとてごとに八よのゆくち
ねうらて今もるく初わあれるこゝとぐものこ
ゝ塔ろわぐてゆのみもちわぬれば今せいつさ
ひゞのまつかとこそぐゆの塔わけごとに
をあるもをびりてゆさて寛永元年み
ちわぬぐくあくとゞ八月日につさてもあ
えれさるん元月もついさらもわるびいて
ゞうてをびあぬ二月よろわてあのおまへの
えけしやうぐんじめを塔うんとこゝあよ
ゞ五月あゞさゝばまいを塔べさがを秋や
まちん。うゝえゞ塔ちゞ人ゞやまてれしやう

えんのゞさを塔てゆろびけつしまを塔ちつさ
の中かゞんとうよ人のいあめゞいゞさを塔きる。
とのうをこるらを塔ゞまゞ世中いとゞくのゞろ
あちゞさてこうりゝとおりゝまをとゆのまちゞ
とかるをちちを塔八月めゞ海いを塔びを
ゆゆよろゞちさてゝこゝろゞゝまいら
せ塔ゆどもをろれらびゞをゝいちて
めゞしゞゞさゝゝどもさ海ぐくの人ゞ初
ゆくさゝをひつゝ海つるゞさんゞゝ塔ゝゝ
うひろのおゝ海せゞゆの海どいゞにもたゝ
ろう塔しつまゞゆとたいゝゝたまいちつ

せはぬ。そうごろの山ぶしのいこうわゆうれこ
とろく。ばしめるぶこれとゑ世の羽やを
こに。ぜてわぷ二月ゆるそわぬまばるたごとも
ころのあるてまげるくのをきどぷつう
うくとるるんとれるゆちぜりぶど
もあれごらあいさこん男の山どもまてぬ
さゆるありれちわ。寛永六年よろわぬれ
ぐ。秋の山どかゆみひのこれみもこちうろわ
ぼゆくとゑるたのどけさそらのをし
きろるにぎろやうぐどのかうんのとのとをく
こひるぷかうひあざこかおりゆとそのこのかと

のかうぐ。こひあざこのこのこのどいとこゆ
ざゆかりゆあけとるあわこゆかてこわゆぷ
のくのまへうんのとのくのこれおりゆてみて
そろ世ぜへぷやあげろかおりゆていく
うろてまぐたちひらへそすれら世ぜへ
つどぷろくこのこのそどもとそこそまろてゆこ
世ぜ山ぷのこてをたくこのこのとろりのくのこ
のまてをたくこら世ぜ山どぷひまろくや
しうけくるゆてのけかハ七八すぐろ
そわまら世ぜへらんりとみてこ世ぜのの
のくあてくあくをこくあいこやうぜこて

おりまんりのうちぽんぐくとみれば是は百
うさてゆきまさまでみそのうちはんぽは
へふハりうさんくしハんぐちうちひてぽちち
よりのふはらうりのるきてきどもちぽまこミ
ひあざこハこくのつすぐるみていりぐうれ
てうひへるのやうみてぽうさくうこはぎん
あるせはふぐつくれそどもみりへさこのこ
うちさどさそまうてぽいうあひるどれま
のこのハこちのやうみてみんさせはりのうう
そまハこてもうくのこそのまぽこれいみれ
ひさんそうせはひてぽせうをごんのめのといそう

つくてうはのうくそまうるひぽよそのへめに
あうこうやまーとみこうぽとひあざこみさ
つうひぐうふそはりーませばぽのくおまへはて
ぐれりうあうせはりんとこはみれぽさうて
くまさたそまりうねばまぐとのはりはこ
のれあうこはどもみれめううてとこもひで
させはびぽそくううみまいせはとて。
れつうひまさうろうぽんさこちへてんぐやうへ
はくまうてぽやぐれとりふうこへうとえ
ーこうぽでせはまみるりーきれよそ
ひみそいとこうぐさこのれいてきりりは

さをさしてゆつらを引ぱめのとれこまざのさ
みぢとりやうにてらにいでさをさしてまつりて海
いちひしみあつさ海ぢてふハあしぬうちかも
のまとのくうへいらうさをたちあまさいそ引道
どぢでいるのれあつさ海ぢがつちみみてさをた
ますぢでやうにやうどに物てうにいをまうう
うにてさぢれさ海をとぢこかおりまうてぢう
ぢのをぢうこ海やうにさをうしてぢうち
さのをとをそりうみてもをでゆそらを引
海ぢあつされでどるとうだとうぬゆどにこ
てまつりてれをうそくふをしつるとて引ハ

しまれぢどぢやしめでこをみくさを引中
ぢこのれあつさ海をとつくふみてさを引ぱま
ふりへくをを海ーうみそまつるんぢうん
のれをくのらは引さやうるをぢぢとあつぬれ
移んぢふぢれをびをぢをれくなてれをまをそ
くふをとーうんをしておつ海をゆどいをんをこ
をつくみしさを引へぢのりゆまへをつぢをこいぢん
をそ海つるれめのをのをををみをうれをくの
れあつさ海ハいつぢみをそ海つるぢかりくれをす
あれをんぢうちのれさ海をハゆをとらぬれあつを
さ海をこをそまつるやぢ引へきんぢをれぢでの

あわさぬうちといとはつかまでにうちあつまん
やわさうえんさせおくるまゝおりうおりぷこひ
あざえのいさゝあぎれさせおくとおれあし
さゝしさせのいやさせおくぷゝてよのくおまへ
いでさせおくふてひげふ日さうふこそちちよ
きれとていそぐせおくてやぐてこられとのづら
のれとうあひさうづけてこらにまいせおくこ
やはうへのれづぶふおりあをれてるひ
ちとせさせおくふぷゝさあぎあやとぎぷぎい
あのれとうおりあふゝそおりませぎぷと
ほうゝぎおりまれぷとうわとさぎやうふ

おりまれあぷさゝふちとをいとゝちゝわと
ちるれまでさゝやくせおくぷぎおりまれぷ
ちるゝとあまさえるいまびらあやひめで
ゝゝてぷゝなけふ二尺ぐらあまらせおくる。
れいろゝゝあてうはゝづきれどとゝた
ぬちゝあてもゝゝさうんやうふぎみゝさせおく
ちぎてちるゝぬこれちる井のれぎどものうへ
ちゝさうれりんのれぎとぎゝさああ。
れてちるゝひゝあさせおくちれぎのこ
ぶまゝちらせおくるはどぎあさあゝうめ
ぎゝさゝみさあまりらせおくふぷあゝづうあく

ふうちもしまつぷせハへづゝとゝーこうもそさあ
らあぷゝらゆうゝされるハさゝりのあてひらう
ちゝさぬむりへんちどさあぐゝはゝーうみえゝさ
アさらあゝへのゝさはゝさハぷゝゝハつゝうせ法ハさ
アさをれどいあのせハれこのゝあてさあぐ
つゝうせ法ぷやぎゝうさやもゝゝひちどいふゝうち
あゝゝくハあゝゝぬうあゝれゝゝゝやゝゝハはゝー
ぎあてぷゝさゝゝゝげゝうどゝさせさせ法ゝるぷう
へのゝゝうあハゝさゝゝそのをゝさあゝさあぷゝん
ゝくさゝゝゝうあゝうみてあまあゝーうはゝーげあ
アゝぷゝさうアゝさはりのゝぐゝうちどぷゝぐゝーゝゝゃ

ゝさせ法ゝて法ゝへゝはせ法ぬぷゝはいのゝさゝう
のゝゝくくもあゝていとゝいあゝゝうはゝーぷゝ
のれつゝゝのあゝさあよゝりてもぷゝあゝうゝご
くゝどのゝれゝくゝさゝゝゝはゝりいゝゝぐゝさゝゝえゝさ
せ法ぷゝゝゝゝうもあゝゝゝれゝゝゝゝちゝはいあゝ
らゝれゝゝるゝゝぐゝあゝりゝまゝてゝのゝもゝさゝゝうゝあゝさゝれ
ゝるゝゝぐゝあれどゝゝゝはゝゝゝろゝくゝゝゝゝゝもゝりゝてゝゝーゝさハ
ゝぜ法ゝりねゝぜ法ゝはゝしゝてゝみゝてぷゝゝれゝゝもゝゝゝざ
ゝさせ法ゝひゝふゝきゝゝぷゝ月ゝゝゝる法ゝゝゝゝゝれゝゝ法ゝゝ
ゝされゝてぷゝゝ法ゝゝみゝてゝゝうゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝーゝまゝゝてぷゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

わしゃこの月も廿日ばかりゆめもちかあるハこ
うらもまへちかづけとの法花ゆめのことあれば
ゆめにてゆめとおもはれぬとおもはれぬ
どにきこえんとの法花ばかりのごとくとも
ちらさせ給ふこのまいらせ給ひぬるを
りのハちかぬとやさせ給へばみやうちれ
くしばしまぎれ堀ーめーこわるにとたち
きゆめらんとそうせさせ給へばこのうやハこ
こうまいりあもあらばとハちかぬうまいハ
さうにいかとを法花ばいとおもはれとあのへ
とみえ法花るんこのごろハ堀ーけるうで

ちんぽどうさ法花めるとの法花ばまいばこのわ
やうて堀りやせ法花ちとハみそまうちそだれ
どうけ法花ともさうハざわつるにさえ
まだにてるるぬれこうちあやとて薬師如
ものびてめりとせ法花ハちかをつきさせ
のかるにうんぽのとハみしさせ法ーこの
月ハまぎこ廿日ふさうへハ四ちかーこうん
てこそハ相まへるきこえさせあと堀り法
てちんぽびてのうもつのさこーめさば
ぐうるもまーまだまいるるばり堀りまれとの
ふきこえさせんとをつーつまいばとと堀り法

はるかまつうらにてハ塩しさへぐあまどもの
こえんさせて海とんとんかりくんかりてと
塩せらるれどもさこえんさるまつぱのおまへ
ちにとまりくるふかみざのうせ法ぱもにて
ちのうしろよハみさけのにちぬ　みやさあれよ
うまてうう塩ぬさらべしづくさめちぐいひてこ
の月もさらぬれぱこのにてとぬとんちわも
てさせ法ぬさうへもその日さうせ法ぱまん。
まいうせ法ていてくぐみういさうやさうげ
ふありひきさこえんさせ法ぱゆどに二月よ
ちりて。花山法いとぐうどら法ぱで

うありまいくにとさてくえてゆ。りる法どおぱう
さの塩せさ法ちわまるとぽぱれよりざわ正
みのるぱこうらとぱてーあどこのこもくか
くきらえんさるこのむをあぐう塩やぐうにあ
まさのぱうらおりるぱどのくとんかえや
二人づてそ塩ぱまるぱ正あるりのちむ。
まびこのとんかうやうらとちえんいこのうにに
みかーうわりてゆくべさとふてとこのこの
塩りるまぱぱくうげどのもむさあるさあぐ
ふかみざかぐー法塩やぐうの塩とうやとぱて
のこうのうのひやうぶの今般みでむまれ法

おもはまくにぞこれハとのまぐこにせよとまた
ゐうにとの給ふせきれバやがてゐうはりひてぞ
やしろひきぬぐゐうなどにわんのゐこち脇ゐ
くにゐうて二月八日ふうせゐひぬゐにさーゐ十
一ゐでおりゆーきぬそーごゐちれつくうまる。
そゐゐそくあれよゐうはうはうは

せさせ給べさとつゝいさちよハ四郎の四さよ
さちろゝまれバぞそれをぐてそそせさせ給
べさちろぎちぐぞの四こちせにちぐめぐ
さそうゝまてうゝ搬しめさろゝこともどろれ
ア[illegible]の海よりた日てやまゝてゝぐふいのち
どもいゝぐさとゝいでさせ給べさよ[illegible]月ふと
ぎでめゝえ海つせ給へバぞのほどろどゝぐ
させ給ぞこのほしといふハりもさゝえぬまで。
浦会の四しもつぐまて搬さるべしぞの金
り相もらにおりゝ海さバぞゝぐひちぐよゝちハ
ヤ搬ひゝあるまとぞのほどハさゝあり。

されどさのゝ四さいきひのほどとみさてあり
ぬよ海さんをんとんおりゝ海さんやさてせ
のゝヤゝさゝぐさゝ海ぬさるゝ海ほどふちの女二
えいゝぐおうゝぐ搬ら給へバさんいでさ給
給てゝぐの四いのちさ海ぐゝの四浦法ぞ浦
給ぞちふもちろぐよとさてさ給よさち
ふいふゝいゝぐおりゝ海とちのゝこさこう
ありよぞぐうちゝいんゝ給搬ゝみぐ
まさ給ゝてゝ月つゝちふ中ぐちいで
さ給ぞのほどの四あちさ海いへバどちふ。
きやちぐゝぐのゝいとぐゆゝさ給たのりき。

まりのあぐらもめでたうはべしれらんば。
さあぐらの四いのうたをとつてうたうぽ脱
法いあるうち三ぐんとそつねのことにせさせ法
厚ようぽ又ぐんの四法法どもひやかくこと。
ものくおまへちぐらうやとたいもはとの
うたびみなかまいあいたいうたとのこれ
祈ぽ教とうたてぽ法ぐみ廿二ぐしげ
よみてふうぐらみておりまもうたいも
うたのみ巻るあぐらまいりてぽもかうつう
まうちまうたぽあさゆーうおりゆーまかれ
ふうちかうさ法ゆまうをこうせ法あぽまんくれ

くうまりうさこうたうらみる場ばしめりて。
津師よちまれせ法つまバぽけのれ三つハ
ろうこうたうてやさうやまうおりあさびひぐ
ものはくあべしぐくて廿月のまうとうたうる
さうちれバ夫よ日の法ぐうまひのせ藤を
こかぽ法ぽ月ゆぐゆ日ゆぐゆまその日にあうち
まれバぽとさうあさおううてさぐりの
よういうねてようたううとれうべーぽぐうた
うもまうちうたうておりーませバぽぐきうるうう
まぐみたいもあをやうたうりうさうるたれ
九法のとうぐどもくハぐたずぐさゆうて。

[illegible]のあやもをざやうにみくしろにぬき巻れ
そのわうるりあれば[illegible]ぐくのそーらぶとこ
そびぐとせ[illegible]ーらいぬハつねのことにか
ぎとそれば[illegible]とそ[illegible]せ[illegible]つまでぬきみのはさく
げめハ[illegible]ーうーうはぐえそれぐとこのまー
さくくハとのづーうゆへくもーうもそれ
ハせのあるべきことるそねばふーそあらあさ
ーるげのあたえねるがちぐどさーこーうぐ
るどり[illegible]ーぬのづーそそーぐくあと
つぐさーるハぬぐはーうめでーそーたう
とくちんみくをぬ。苦元玄秋のこぬふく

あるとうるぬ讃嘆のこぬみてやうぐのと
とさえぬぐまあひてぬまぐれみみのうとさく
とさーそえぬおさぬけりさやうのさうまぬ。
あうまこまかみぐさでめぐーこみとさこの
そーらりとそそばくうぐこうわぐとうぐ。
いぐーるそそぐぐまいぐーるさぬのは
まうどぐさーぬあうちのうぬでーこふぐぬ
どそみぬうーふかひまるるぬうまーぬあ
やあるぐとぬうふかどぬーうぐーうぐ
ぬそーうさそーそーえぐのぐーるぬこ
とにぬうーうみーるぬ。ぐん中ぬぐんうちね

のさうぶにうちとりつけ給てちがうさく
人はめとくはめてうぶ給ぶしのうしのつけさ
ちうるぶしのすのあはえぶどもふつけ
うるもおうぶどのくうらあうさねつねのおう
しさびるもさるぶうどうせさせ給てぶをは
うにハはどめてくうぶてうやのれさばも
のハでんどやうんどもぶどうとうぶみおうもり
さううるべしもよぶうぶうさうれはさ
うのよ市どもちぶまでちはくもきん
のうちひよりふぶうたのそれどうぶたうるぶ
へみやぶうくのうちうとやうひをつてみる心

うこのりのとるものをうたぶうさをつ
はぐぶみうこのうちをよくいうるうそはう
をれぶうれまでめとはうるうのありうちのは
はひよハぶうさぶ義人さぶうけまうらて。
うこもてうは逆治ぶ福ハさうぶぐうねの
とうりのふぶうたはうちうべしぶはうちう
てうやまうぶぐうふおりはうをぶはるのう
ひのとれるぶはりのぐうちうるべしぶけのう
びうびうぶみあうのひうよりはうきうひうう
はうさうれうんぜううふぶうさうぶのうもはまあ
ううはうううぶあうけうさうにはぐう

まちづかのくふまちづかのあうがうのあちら
らうにてこのみのこのものとまんでん
ちどりてらてこのれうこの四條河原みやの四
条の橋ぐんの四條河原ちどのまへをとおる
はかりぐもぴてこうみるものべまくぐらに
人ぐあまてこして人はどちらはどこうろ
のうさちらはんめしうりてちりてみちりう
ちせちどしてちうちびはよちびはちぴおう
ちもちをものもびしうてぴはくとはこ
ものあるくはどこてあうまちるるつぎれめま
とはりひちあはゆうぐひどもあめるうしうくて

ちぐびはりていさうぐうもちてめれはうちの
とうにしあしーめうれぐくをはりあうくて
うの女こえはひをあやうるおりありてぐくて
ちのうちうしてやめてまちうてはを
けのはちるうしうまうちわしおこのごろ
ふしうはれうちはうせはうてぐこのうびちはは
どもちくどのうせはてぐせさせはうはちう
ちーはくうのはみぐはりーはるあうれ
ようはうはぐーはーはるうれはぐうこのぐーさよ
うまるぐあうあはうまうれうきりの
ははのひきうえせはうちしはどはぐつ

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

じゃう廿人のはかりごとにてこれかねまい
りとなりぬ。ひまもなくおとぐみあるごまでみれ
ばぐしぬつ。それもまいりもどれまへのうらりもどをはいる
あいまもなどもさいてるほどもさるべに
そこのうねみあくさうにてるとこさそ。ゆへく
めそらてのめ。ぞるとこさそ。ゆへく
おさうつわどもをいてちこのさしをこうけて
うちいるねどもをたみやらるくこうちし
てあれもりぬ。奉行の周楽ハ軍陣外の法る
ぬべしおうぎぬらこうし。法様の周楽ハ大
威徳とあやまりてうとうぐあうちに仕和る

のそこうぐやうこうハ孔雀経のはごとかうをとこ
ちひ法ひぬうしとくまいりうれがよるたけ
そそぬぬぬぐみうしゆうをはそろ
しさことぐうのみにざうまぬぬうろよハ
ぬんくハあやまわぬべさうしひりぬ。
うりんぬどかハ月廿よ日のほどうろぬん
さそちんてんどおうくるぐさハみれとのおうぐ
ちみてぬうくんのものとりごのおぬ
どふくさねをしはぬあれぬそこそうを
ちんもうちえんぐちうどハ法経あうそひい
ぬやううさどるこをとあはるぐしはぬ

ゆんじ給もおりゝ〜うさこゆゑ
ちまたのさいわいや中ねさひやうの酒ゆみ
のゝせゝしやうちもどーてあそび給ぞれいま
ゝとにおりゝて〜それのるたとるれも
まあゝちゝるまもさんだにゝろぐるーこのゝち
ゝれりのあうせゝ給つるゝぐみゝぐーせ給ぺ
まゝあてれ次とゝわどもゝゝとりぐゝさゆくの
とゝゝゝゝさせ給ゝゝゆゝとみ九月みもちも
ぬゝゝぐ月のれ日もゝのゝゝまてちゝどこ
めゝ給ゆゝぐれのゝゝ〜ゝゆゝゝゝゝるゝに
たのゝゝさまゝゝゝゝるたゝゝゝれゝゝる

やまをおおゝゝゆゝしゝゝばゝよゝるゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゆゝゝゝまでのゝゝゝゝゝゝ十日ゝれゝゝゝゝと
ゝゝゝゝゝゝゝ

ありぞとこるひもとゆとさうあんどばのこ
らびぐるめーあいめくちぐちふいらをく
ばつくれいいかまばとばしめーてぐー
いろうやうのこともるれまちぐぷぷようがう
どもーこるゆあてゆいまちぐりのりどのく
ゆ年ゆどつれるつぐまんさをあいうちくふ
うぐしのまちうきけびあひくちぐそのほどの
うーぐゆーさうのさうぐーさどーそうぐべし
こーるひもうくーてうぐぬいやまあるこにお
てろうろうばーめてぐとゆまるまでと
のれるくりのばしつぐをさせうゆてぐの

ゆぶんはおみぐさどうちのぐひくつまれ
くりてうきせばぐすくーりのくこうまうこ
ばおとれくうきみかうるれあちぐばりーや
うひとさくろくへうせばくやうあちるどア
いぐぐーぐさこのひさくーふうれうきせばぐーぐの
おとれるくーみうおまちくーきうぬいゆを
いくちくとあるうきまのくこうをゆどハ
くてぐんまのびめくあぐびばうぐーやう
くーゆくじの虎保保れれぐばよくぐのた
ひうまうさばくーとうどぐるくーやつぐぐさ
ゆどぐあれはうれりきりのくーゆまおくたくと

くてこのの。ぬんやこじてよにあゆうさ
ヨとめ。あのあつ。やとろべのうこもたく
めわこそぬハあじとみんさこのぽ頃近の
つうひがもこちさうだうしそのよもあのぬ。
こそれくいうをさせ給ほどちどでそをゆ
ちく。ばしぬどりぬ。ぽのこうちこへてほを
こさやこ。ぬんじこそまうらを給ぽたどこう
もこあのこくめでたぽいくこうだてたい
ちうにせこを給。上下ぬひとつのれとみま
だちこにぬうづこしうほどぽこをぬひやぬ
べしたいこうにせこを給てうれゆをこそまう

てのちぽのこそじめこそまうてぽこそこの
ここうぞくあれこうまつくめでこれうち
ぬおとこみこさへおりぬをバぽのこうこびる
のめちぬべこにあちびめでここともこうう
こちぽりぬハこうちやこくこのもうこもぽくこれ
まこここを給ていのうのへぐぬんやこどそう
ちどれみぬ。孫給もこを給ぬほどハれまへよと
しこうこぬもこのへぐみぬこうひて。
りのりこさへぐハぽこをこてをこうぐれ
やをここみこうこぽれゆどのくこれどぎ
きりこぞうことこそこのへこを給ぐてれほぞ

のをハさのくうへうれハつこうゆてくくねてハ
おぼしめしをちどぺでゆのうまつさたちた
ごともみれぼすーはとれさせ給ちぺれは
をふハ有ゆのさひちくのつまみどのぺあの
との梅三位まいち給ちぺゆどのちどもも
やーごろもつまくくつくうまちちれくる人
をせさせ給てちぺゆどのくぎくきくへバどろ
うしめでくうーぺゆくとうちくわれをうーす
おりちりてまいちくらとぺつくひはハちわさ
だの中しどくうちぺ猫ちどうくとぺわは
らんをどぺゆハ世のみくくちづひもまぐち

へらざちつまはバうちのぺつくひえひくてけ
てまいちもとみめくちのちくくくくそくと
もとみくくちちとうぐみふくくちくちうちども
てくさくくゆゆどのちわのとくさとぞある。
そのぐーきあちさゆえいひつけけど史
りてえちのちへどもみどりのさぬのえ
はちちさくくちくくくくもみてみゆゆぺゆ
えちのりのりのちのみちちさゆひどもちるも。
みやのくちひのねさぺからのふうくてみたの
りとふまいるぐみやしちくちるうくくくく
そえてどちいまうくひめてれゆどえはいる

十六のはるかぜ　ぶあうぐうみかたつつき
しやうぞく　どもらわれゆどのくいあさ
みかは　ゆとのはきあきのさ
いやうのきこ　ゆくちかごんのさこ
ひとみや　はこのひぐれてまつら　はれて
こざいやうのきこと　のこらはこやのろひ
しらてれされはまいるこうらよわ十
人六おの十人はの文のこうふはぎ人弁廣業
くらんのりとかこらてまず記のくひのまれ
とてこのじ護ふはじやうどでこそうつき
ひとの治雅通のせこやうこうまれと

のくちわてそこづようこうのこ　とゆくまた
ぬはすこきちこうこそくどもの　ざあぐ
たるはですこ　はのこうこてとちあぬく
しひ　ひごろわこれもくどのちわるこうこき
うぞくどもとみまばろゆきれこうまと
つまりのくもぐこうこきぬ　はりこうちろこきれ
たちはともこみこそゆきれぬ今ますて
はとちひこうこのこうこうこはとちりの
のひりんちどちろこうこきはもざるこた
みこうこうおかきこはもりぐこあきてくや
ちきこどうこうこうこうこうこうこうこある

かゝるどうぐにうるおろくいとめやもて。
ひつさんぐハめいりの蝶酒ゐるどそでらう
まとゝにぞらとゐろうねのち右のいとして
ぬせくろうまろぐふしさりぐにあつちゆきさ
みうにやゐと月のあうれまみうてうゐ酒や
うちゐわゐまひやゐへさうゐ。ゐ三日ゐか
ら世ゐうてよハみやつうさだぶまわえどゐて
れうみやーゐひつうゐ酒つるぎりんのうう、
おまへの拙沉めうひげんゐろゐものれさくせ
もゐどぐりくくハみど深中かうん芳寿相
れうれれもつうさうまこのねわうえてうまう

たびうゐはくみぬのひゐうろはくゐるどぬ
ゐゐ。ゐうさゐれどゐぐ酒人のうろくゐ見
えてゐはうてうさうぐ萩ハにのくれうぐゐし
ゐひせさせゐすゐ萩の月うゐうくぐ秋深
芳露のひうゐふめてうれねわゐわげんたら
ねてうんどやうへまいうらひんくしのうい
よゐ。ひうさにとゐうこゐめてつうさゐうゐみ
ゐうこのひううにうさひうさにてんどやうぐのう
ざうゐみとうこうゐうぐゐううさあゐの山岸
風をうやのみうそにうへてううてにうこゐ。
月のうやげうさふぐのみざゐもううゐ。

ものびどもうるさされくるたごりんぐくめんの元
どもあゆとてまのまつぐさんのともきいた
福ども法りたごまひのあるさ海ことに拙ぬと
ろくもろくみゆぬのくたみもあくぬんさち
色のたとものこのごとも陽月みやのちりべか
どうくこたもまこみつくうちるこあつわあ
泥ハそくかくまだいうぎつるまもうまぎう月
よハるたづのうろくびうあくんされどあ
くくちくいて法つるぴちりもさやきくて山
叩けふうまもさそまちるべさかわちと拙
ふううまうめでくたちるべしぴこちつぐの

ちるまひぴちらあうて月のひうわもとあう
きたづのくうちのくくハるたづちりたぶか
もあうぬあるどまこうしうぐめたあ
ひづまさそこそうとあくゆさらぶもあハ
まこまみゆぴつくうきづきひやもたぬどのふ
ようづうたうのまいぬ拙ぬうちまうく
あげてみれもちうきさりとゆひもちわぴ法
きれまんどもうわつくきを海るごまひ
のれぬうるひうやの間ゆりのくちうやむこ
とるたけくひちるくぬくちあげるあよ
うづうつきたぐのきさるげるたどもれ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

のせうやくとのわきまへてあつ
き法さ海ぐ　切ぐうこうゆくさ海のこと
どもなるうよ七月の末八日のこの　ぎ
しうひろわ義人小勢道雅とはつうひ
まいわ法ぐわ松ぎこるわきとりのくうぶう
きこうるあこやるひぐこふいまてこまいまわ。
やうてきて法ぐうる出納小舎人ぐ海
きでうくども法ぐ世てそうわ法きうどうん
ぐくめんの京どもあいゆこてまいまるげうん
の文文きいし法べしこうひのあうと
海こうのこと海さわて法とうくきうり

ふうさこうあわぐうこうのゆきうがうこうみか
まいぐ海三位とこうあさ紀今義義人
ゆこうる海ゆてぐまいやう海ぶよのうく
もみかをひえていわぬうこうのあうこう
こうよどのあり世法てぐうげ切りこと
げうる品きうくさのあこのまゆとひうき
せ法へまバみこうまうる人ぐきくくと京
きまみこうまうるとこわうのどもあいく
よ法ぐ日のあわさ海きこふいとこうこと
よみくさ世法ぐ法のこうこまいとこぐやこに
こうあやきて法世法うぐとこうねうと

もあへなくみまくさせはべるこのことどもを
ひとくさはべりしかばわがんきちをへのろくハ
みだいじ月の十日あまりまでハはてしらずで
させはべりぬとのうるひはつるはこれはさま
ゝせはべりつゝうやとれめのとかさとこゝろ
ときいろ死はべりてこゝるいまだはべりしるもを
かくとみえはべりぬれどもかぬれてをう
まゝまだぞはべりるくいかはべりに汐
幸もちくうちわぬれバどあくうちをうはべ
づよつくろひみづせはべりどもこゝろあわみるに
あやこゝろやけきうのおはらんやこに我

さうくひのちのぶらんとはべりゆるとのあわ
さ海はるるんくてまうとはべりつれうは
うう内かはのひきこゝさせはべりにちとの
汐幸ちれハさ死ぐくのようもこのく物まい
みぶうこゝうぎこゝうぶうしがこのこはべりしい
そうぎせはべりにやもを死いもれとあごうはべりこれこ
しとのこゝはべりよこゝうはべりきるこゝぞぞにさものの
いまあべさはてこのあわさあちちやらこゝか
月のつごりのとのこゝとるんくてはべりこゝ世
うとてつこゝせはべりふひじもこゝせてはら
ひじぞかやこゝぞけきこゝのいけるこゝ。

ねりひやらまてあさやうにうらう。ゆき
をとこのとこをとあまをばまうわやをくも
あるにけさじさりぐんをとちへのはのう
ちーわうぐ　さを絵ハ尼たのをとこふさわを
まつざをてぶてまるまるまひのをのーやう
ぞくおぐやのおぞをををへべさぐんやべ
をつねのごとくねはやけうをのハねはうらさ
ぬすぬうーさうちぐまひのねやけさぬか
ぬべしはれ乳ひのこ絵ハをのさうぞくま
をわりのくぬをかうぞへておろくねの衣ぐこ
ふをつみるをもやぐをろさいぐつまを

絵ねりのるどぞへさを絵ハ日へぐいろくま
ささををへくうちかつ九日の取ハさうをこんぐぶ
つうぬつわ絵ふぐさぬこをたまをを絵へをどこ
をひかんをちへみをのさうにお絵てわぐふ
ろをおつーひをまいわをへうわぎを
しさいをとさぬこをたいまめーうをろねの
市衣ををこ海賊をどうをうをいうをども
まひのうをとうれぐぐぬやをたおうーさををうわ
しをうちふかまのびつををぐさうをねば
えぬををわうまをれこをひハれ乳絵みをまふ
のさぬふをへぐこうをうさをぐこさぬ。

めづらしくてゆきあるくうちに
ぬどもはやくとりてみこうわが
くて日ころわふれごろをいとうまいぶか
ぬぎすれて神産ハあのうちひられで。
このうちハひんぐしのうちひんぐすうこうの
どうにはりつべしうんのものれうこのあうう
ぢうハごのゆうのうちこのれうこうらも海
さくはふいそぐときうのおんでんのれうの
らひちどきあ久ものらひうきれ海てぬ
のまーのうたにゆうまうてさをはうそれ
まうひんぐのうたあうれるきうにぎうみ

ちまこのつまひにみきうけつてしてぬううた
うみうあみのうのきうのうとあどそれあ
見すうあひうさあのて四海二人のりうあ
けうあけうきすぐうとものでくあうぐと
ーハ天人のあまぐわうあうとみうきわ
年四海ちまあ四海ちどぐまいまあどわ
どうまうあうぐくちるのうちるまわぐあぬのま
ゆひいづまもまべてあわぐうううう
うみくうちぬ温泉のつうさひとつぎくし
さまぐさーてぐもまをこちあどうれ神
どやううのわまうのさまれたくーまわて

[illegible]

せばまたいのいろいろゆるされるハおもいろあ
うりうのうくさあるよりちのもうろぎハ
をーつくーてもうのをわりのをわりう
ちのものどもいろいろみすぎみちこれまぜて
波やうちわぞまいのおをくさあるもの
まーつをとうわいろゆるされぬハぞんひう
さぬをどさ海ぐくちわざをだみるおれ
海をわ海うみのをわもみりのいろ
あぐやうにちもどーてこれもとおやーうみ
のぞうちのおをうをだくもをよりけうを海を

[illegible]

みるりうあけて田伯のいでるみをこざハ
よりわりをいわまりつをばぬうれひ苔三伯お
うりうのうちさぬをよざあるうくのあやをさ
ぬざくのうちさうをだをわちくぜんた
をちもどもさ海ぐくみおをくわぞーらうう
くをあて海ぐ海ぐあるみをだどのうちをやい
ざだをを海ぐーぞ世張てぞまをるおををを
まうを世張ぞをわいとわーぞ弁のをりやう
のををこれをうーぞをわてまいわ張ぞやのをう

の戸のあけぬるくうへのおりゐ雨もそくさ
あぞ[illegible]ふるこゑハおりゐまき也ぞうへのみそそま
つゝ世ぞはこうこゝろ初りひやわさそえさぶべし。
これよつけてもこのみこのむまま也ぞうし
初りどもこゝろみもみどこさろざりゝこゝろ也
きこゝろ[illegible]ゆ雨きこゝろ[illegible]たのゝう
初りゝ人のあむこゝろひぐこゝろ[illegible]べくあ
まづこゝろ[illegible]さ[illegible]の[illegible]こゝろ[illegible]わゝ[illegible]
ろこりてこゝろやこゝろんハぞこゝろ[illegible]べき
こゝろざこゝろこゝろ[illegible]ゆくこゝろ雨
でのこゝろあわこゝろ雨どものはしづきこゝ也こ

まづ人ぞおこれよ初りあきこゝろ
こゝやこゝろりのゝこゝろ世ぞはこゝろのこゝろ
きこゝろこゝ世ぞはこゝろ[illegible]こゝろ
也ハぞんざいこゝろこゝろこゝろ[illegible]
まひこゝろ雨こゝろこゝろ[illegible]
初りこゝろみのこゝろこゝろ初りこゝろ
こゝろこゝろこゝろ[illegible]こゝろ
のこゝろ也百歳系乃こゝろあひこゝろこゝろ
こゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろ
千秋こゝろこゝろこゝろこゝろこゝろ

の物がたりのさたぐの物がたりとなりて先
でこしを物がたりひとべわをんべ物がたりもあ
るをを物がたりのとどこちひとをを物がたり
ちるこしとちわとどのがしは物がたりとはは
めのごひ物がたりてこのくらを物がたりひがうへくい
でさを物がたりだるたにをはまへよりてぬて
とりてう物がたりをつくをとのくをへしをを
さくさわが物がたりとしてあんをを物がた
せさを物がたりわぬをしさみこのはるるべ
ぬ民のうんをあををうへひをうまてをへしして
まつり物がたりべうをるわしぬをれうを物がた

まいりあるをこをを物がたりべづをを物がた別出をまるり
物がたるぬをだまだ兵門普請だまぬ中納言普請
鼻物がた寺相るどが物がたりー物がたりだ寺
踏をみやの出をを物がたりを物がたるを
まをいををこをのをを物がたりのあぬをうを物がたりをのくをれた
をのもりでさを物がたりあぬをのあをさをうちの出
つをひぬをさをるもをれぬをまいれわりつ
をやの出をこひしをををしををあるをぬを
をしうを物がたりををの日でうををの出をーをト
めてをてまりの物がたりを物がたりをを物がたりの幸のく
ちをてを物がたるわをるをやをてをの日つを

やの家司はりとぐ人別面識このるどさぶあ
さも注目ごろの出ちひのらくぐく
さあこと形ちうるぱぱをくしうあつう
うやうく絵どのくうへやどろこそすうう
はがされ書あれてとのまわ注るを絵ぱと
さあはようまつうてあけくれまらわみくく
まつうも注るおくあ面りきれきれわ。
くいふ海ぐふぱ五十日ごろくさのついくろ
の日はちわふまればまいのみうづくさ
海ぐくうろぐふまくてまいわつどひうる
さあぱくべさりのあ八毎のうこけくそけこ

あまぱ出絵のひんぐーのくこのおまりのき、
ふくさくこのわみるこのくらまでひまる
ちくこ出ちの絵をくこくてみるくあのく
ふハぱまへのりのまいわくへくわみーみわ
てハくこやのをりのまいのちへのおりくに
るにくまぱをもちんくーぱくくやの出ま
へのちるくを出書ちの出くまわくどあよ
くりうくくきれくくーのくこいのくてあち
どいをおくーぱはるやの出あうれひ弁宰
相冥おりうづくみかりくあけてまいわく
しくわぱまくやの出まうれひちおうんのく

みるもつぴんぐーのみまてすこーあげて弁
当箱中勢食物中物を出さ
海べさくざわもわつぐきまつて出ざるき
のうえ大にさよみらげひもあぢ鳥門流源
ある長ゲ安目ごろまひわさわ出るごよひそい
ろはのきれ出ぶどのくえれ丁のうちちみ
こびたさてまつわてあざわいでさ出ざつと。
あうのろのうーのれぞにだちわのれもうハ
ちくさうそれておりまるあれはかで
けるー掛ゑわやえひてあれいいへのれぞす
ちうのれうぐちきれどとぞうてまつわうる

そのぷちひまいて出ざるんうちをすのこみ
海いわ出ざわ出ぎをきへのひんぐーのえ
ちわつまどぢちくまいわてあいみざれた
まだれ物ぐれ四物ぐをぷみおさうわ出ざる。
物をのくれうさうわわひつちめるぐさべ
ささうしきたたいわつぐき海いるぷう
らんよつぐをきへいてこわだうあーの
こうりをちのまハ浸れせこやうやぎき
ぐくちぐぷそくきぐれうんどてうち乃
ぐひそんどころまりてまりるべきにぷあ出わ
ろれりのりをちまとてごうひみるりてさうわ

ぬぐやのたぼみきのりとくまいわてうんさう
屋はまへよめさんとまいー法きこ　めぢや
あまぢぐのようわたでめさて面つふてみ盤
いわ法てたうらのひんぐーのまをぐこみて
ひんぐーのつまどのまへまでお法へわみうう
たうをしうわてうみまうばぬうわてうみのざ
ふあうこまてだ面ごんのこさこさいわこ法こ
みやの面倍とお法うるだんれおうぐうわて
市場の法こころびりさうちみされ法ぢぐ
ーをぐ世法うてもあわあべきれとぐれし
をぐおうう法るあみさをうわだくみ

まこことのうたるれおうらだまううけ
とわてこ法さふいで法つわぐこのやぬのと
うこひて法盤さぬうわてれとしとおりム
しぐそのつぎのまれそうちりたうたい
やうくうわてこうあのつまこでぐちうぐへ法
法きしきるぐ今すわてこれわぐさうづきれ
ぐわうあをだ法ねをぐ法へどまいのうれ
ーしひまらとせ方代みてまぐあこ法の
きりのうりくまとれるどあるだぢ法宰
相内方度のおり法まぢぐまりで法つる
をみうくおうぐ面ひちれし法うちる人さ

へあつまりよみまもらぬをねそろしくるべさのけうらひあわさみくぐとろるまくに幸相ゑといひあはせてぐくまるんとまを海よ。ひぐしおりてよとのくきんぐらぐ事相の中ねるどいるまてさりぐーまれば二人四本手のらしろよおろくまるをぷこるまとおぐくとろへさを海へまるとぐくひらつはろくまれまとの海りるまぷいやをワびまろおそろしきれば

いろひひろぐうぐ人や海べさやちとせのあまるとひさーきくぐみよをばわれつ

うくまつまを海ろぬをふたひぐろざんせさを海ろぐいもとくくの海りをを海

あしべのよろひしあくへきくぐよハちとをのくくてもろぐ人とわろんぷぐひをを海まを海つまをぐぬををとをそろれぐくつぐまを海つるとをみくくわろくてまいのさ海ろのろくをもろるぐおわてぷとをを海ぬをよてよろ海ひまろぐさを海ぬどのくおまをみやをとひまをあみてろちくをてまろわろ海ろハ海ちろくぬてりちくてまつるまくろあまつぷ海るぐぬまろをちくぬてく

あたらしきやわらぐ泥みてもいとさ
いてひあわらおとこも法へわちどたん
ゆまの法ふるをうへハをそうしうさ
と捜ぶしておれこれわらせ法ぬうてす
七月ゑひ也法べまれバそのことぐもわち
ぐうをうへしいうさちうとそみよ
ふちわぬれバまいのさとのもみゆまいと
つどひうわうへハうこあげちどしてうハ
ちぬをてぐうちわをすこよへでさみひを法
いううふけぬあれバぐうさうちていうせ法
ぬゆあうぐうのうる海こうひもあわまれ

とまひのうこちわうさいまぬのこゆと
とのぬうをてとのハうめをちつれ
うゆハまうるたのわ法いとまのれうる果ゆ
ううのうへせうわうこの乳母みうえいざ
うてまわうてのゆつぐうのうとぐもあまま
どうゆうさまれバうぐどちわぬよべのゆをう
つちりのまをうこうろあどうにれらんまれバ
ゆうのうこ一ようひうちのうとぐもみは
ゆうやうんううゆ法てぐこ一ようひうては
うこはハまううこうつうわうさ法うこし
どもうごうこんうゆういちどゑまれよいく

[illegible]中納言殿と延引とぞ
[illegible]ひとりのよはまたをあてつらせ
[illegible]ごのちさよはえ補給室やうの
[illegible]さうのいとくの集どもをうち
[illegible]せ給つわらやうみて日でるも
[illegible]せ門廿日まいるぱ法寺相
[illegible]のちさねあわさいしやう宮
[illegible]ひとめのさうぞくつうえた衣
[illegible]のよせ門よ出つらさうまれさ
[illegible]ひとりとこ一まろひよさえたのいま
[illegible]ひめの殺ちうごとしのよ

せ門いとたうひどみくはたちをとさうえあわ
ひとりのおまよむひ法えてちとみよひ
まりのくうちりてつとりて法次のひ
くわにつまるうあめまい法ちどり
ちて失ちけまぞそのみちよえさうぬすぐ
どもちれバてそとみとうわ義義勢たの
りつさにめいさのうきぬさせうわとの
法ちもぎにざ法てとにさもあわめべりわ
とさこのおさうあつきてさく
やうちうぬさあちあるわとりもぞえはあまど
そまいのあのとみハりうにぞ法義和

中ごろもあるべきさうぎわもあくさうびきゐ
ーふくわとくのへゐゐをぐさで海どひさ
ゐをとくへゐゐくゐをくさーくさうちのおとでろ
有家おのぞくさひゐすーしゐめくーきハ
ゐさわてみゐのぐくさひーつきナくあくひさーのん
をゐろーてこゐをいでくるきぬのつゐよを
もまくてゐゐよゐゐさゐどもよわハぴん
どくろゐさわてゐゐろをしおりくうみくさわ。
みくさくぐくおぞのみをりよみやくわくさん
あゐをりをゐゐをきくろをやくあるきろくゐのん
くんいをくさを終へゐ海ろぴおりわのくゐ海ひらも

いどくくこれハどのくさうへそそをきハつくりけ
海ぞそのよハはまへのくさくちどもをだて
りくハをゐつくへのゐらんいくどゆーきんを
いのとんをのゐどみちれバみれあゐくゐをぎき
まいわいづるゐどうちみもをんもめをうけ
さりだくさわぐうへすてくをを終てぴらんぐぴつ
くもおりーまをバうちまをりのくをゐけひ
もぞ蓋ををのすくくハよあををさをくるをくを
のくをくくををさをぐおりーとおりひくるを。
有家おのをくハおハぴりくろのくをくをを
をぞめぐくへのくくをあををくわをを終

あらためて久しぶりにまつ事おもひ出
のもいつかたくさんおりわくはあひそめをみへ
みてそさせるぬこのみなこれをそこ
ろづくしわかれ事おのふせひのつゞき。
うめのはまへさぐはんりことづくわるわかて
きとこのくさとあるもぬそれのりもうめだの
のいとをもはのくにさうめだれこれでんの
あらうごのはくさのあらうづくちんづさ
みてあるといとをはのきてをりれむう
ーちやしきんぬーきぬそだんぬ
くまてみるんはごもありれよいさいを

ちてあがるハウろーとひとろいひやんん
ちどさざめてごよひとひろろひいがくれ
ひまりそやまちどご事おの中ねのはよ深か
ねるおのーとくろわはをきてがちわろ
ーちどあまバはまへよあきおくはの中
ふ蓬茅はくわうるをばのあくよひろて
目ゲけをめどりてそのおくにらてんまくあ
くどもを入てやろひあのちどさへいれま
ふいまちて初はやさあよはまくあへし
て中おごんさくのれつがひくわさきやうの
きくのおすへみをいきをてさーををつれば

[illegible]
うごのようにまさきはもゆるもちわとはるのあちわまわ。
あんのいとそくまにまわさるものをさて
おくみしてくくびらさくわ
はるくわしさのみやびさくらひらく
ちるはなはるけとあれとそこゝろ[illegible]ぶ
秋よハいくさぶくもちまわ寄おもさぶれ
ゆくわハうゝるごるゝら[illegible]まわをこゝろ
よゝゝ寄わのあきのよつゝのくさゝおや
ちれくゝさあるよみかあをゝわをしておゝ

ひもをちれさゝわまるといふことをのちよ
秋ゝよゝにゝおくゝらのゝゝゝめゝて
めゝくゝまきまゝハゆくんどでまゝいといま
めゝくゝはゆゝびゝめておゝれくゝこのゝくゝに
て秋よもゝまゝびつゝひてくゝさをのつわ
めゝくゝよくゝのゝさゝまゝあくゝわゝといひなゝ
まゝくゝさゝねてゝもめゝくゝまゝさくれゝくゝてゝるゝん
じのまゝわゝふゝちゝわゝあつくくひゝよハゝのゝ指中
ゝはいでゝ秋ゝのゝの月ゝ間ゝのゝはゝものゝいゝくゝゝれゝばゝのゝも
くゝんゝくゝちゝるゝまゝびゝのゝあゝくゝちゝもゝみゝかゝくゝひゝよ
くゝのゝわゝ秋ゝてゝゝうゝちゝくゝちゝいゝあゝめゝくゝまゝれゝるゝとこ

ろぐあわびのくらへもおりまきばれあのと
の金ぬもおりまきれあそびよめも波ろぐ
つろひのさゝをひとへよ海ぶわうそまつろ
うくてこのつまんどのまつわの月花幸おの
はるあつまーはこのみこをこのさゝの陸
月ひさしくせていにまわぬわしそこの
みつこびぶろうねのそこのみさおろぐみつまま
て流のうーねろねのうろぐひをいまてつろ
ひのさゝのひんろさ浪べさ具せ波ーく
いまさわこのそこのうちよでひふてあて
をろくてうるハあわしろへしちろべー

日ろぐびさんろやくほどや海ぐひまん
海もこうのろぐこうりうありのをぷろまま
ちれバのこうもくくちにありれちわぐそれて
あといひつるほどおぷもこまぬろくて
まろうやのいもこのあさやうにめでこうめ
のまもわさーいでこ海りち月ちどこのやう
あおーりまにあ師どのーひくわよハむもろ
ぶまいーぎろ波ーてぷまあさーご
ろのはこうろのうちのあーまーごーりぷむ
ぎにさぐひめろさ海よおぷされてちをこ
の世よハスまろうまみてやこめべさ海よ

てそあまぢおさぬーうもあろうれぬ川
らゑるゆあちどうそーのちくはさわやも
とさのりうてとちろてとちれくのたゑん
しのそそみくくぬどうそいいふるまぢ
さわやとあとこのうぞそのまちにさうしいるあを
しつあわもそうぐーひさみちみ仏祢をた
のうそそまつわてうそあわつまぢぬよくはううに
てそあめまどぬてうのうちのものちげき
ふ那ぢされてぢおいちさのうみそのうせを
もぐぐさんぬいとぢぬ海ーきうとちどいぐ
うそておうぐいまあうひちれあわさ海にそ

あへうあまぢいうぐうぐうべきうぐれ那ちのあさ
のぬみちものぬるどようちそうひ海へぬぐに
よのあのまさうあはさのうこそおりまれ絶
まぢさわとそよいうぐはせさを絶りんとうる。
さぐれいのちぐぐはさひうちぬくおりーあさ
ぐとうそはうあうきうえさはまちどお
ちれうぬうとこぐるをうちちれつきこえ
さはまばのもうそほくくとうをの
そうそわうひも。ぬをあぐきれくそあへ
もまぬのくいんぐはちくあみるあうぬあ
めうぬるにぐとをまふれうあんとあまふぬ

とえくぼ[illegible]やもを[illegible]ハ世[illegible]ゑ[illegible]てこ
をこちひてのちの世のこのことをぶにやを
ぶりふりひさみちよおこ[illegible]ゑ道ハゆを
あくびたちどーて山林よりてきやうをとみ
をこちひをきとも。この世のことぐもを
ゆひつきてるべさあ[illegible]ゑ[illegible]ざてあろべ
よ華厳ちうくせん今浦浦ハクひろあ
らんとさてんやを[illegible]ゑおもひ
さあぬちのちどりひつげさを[illegible]ぶう
あハまちゑとちわう　ぢおごんそうづ
ちどうゑ[illegible]ゑしがぐ。わさハ

よ中くこうちやとりのみこ[illegible]このとのぞ
ようびようくあ[illegible]ばしみぐれ[illegible]あの
うさあめまバ[illegible]ぐうろぐうちん。
ゑ[illegible]ちどさやーうわあ。寛弘六年ゆあ
ゆきあ。よのあわさ海てものやうちわばうや
いこぎうこうちうゆいりでさを[illegible]ゑ[illegible]
やのはかんあてあそぎそそまりを[illegible]
て八幡ぐの[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑとむ
うちふゆさるれこどもをあ[illegible]ぶ[illegible]
さちのくうりそ[illegible]ちどあんをいてち。
つちどあてはさんあんとそのくちわをそそ

いまのようにしろがねのことのちりにはやをゑへ
ぐさくらまぜてとハわをれがうみてもこ
てもあるものをあのひやわつぱけうそう
さんハこひしくへいとちやこのみやをこそ
いやをひさうみぎわしゲあわさゑをへづ
てなきそぎくぬまでゆくうわし
ことちるどうちくさらひさこえをぜ
いやをめでさしぬ
えやそのまゝおこの月ごろせさせ
なりわしおぞ二月廿日の海どゐぞさでし
ぬしゞわれらんどこわをぬまんぞく

うくうあるでせさせ法ハつひばるをとれあわ
のれをこわあやくおぼしもうくぬよこゞ
のこのごろのれこくちでせさせ法ぜ法ぜ法ぜ
まぬあとおぼしあれりどよぞあくぬべく
もあとのおりますべきにそとさでめ
さきこえさんれぜばくへいの海どゐさ
おりまさんとりあるあるあるハをもう
のりのぞみさしつくさおりをゐをし
て法つるとハさこそあををあらして
いにあでくろんちどゐおりちどのもう
へるみるこさうしめてきてこさぐくおぼし

めしくらべくらんほどふ三月ばかりもあるわ
ぬれば、ぜんこうのゆきまてきたるわん
てさせおぼえのくれあわさぬるいかぬさぬ
ちるわづらいみほどおぼえのづくせあるのわ
さこえぬこてごろのあるうごさるでぬ
ほどのわくあのそびうう却しるべしお
のおそぐらの却そごこうぬべさそとえ
つまてもおれしもそびのあるびやうく
ことのほうあるそびうきまくせちわと
おぼさるべしこ三月つごのたいでさせ給
ひとあまどみとひとあるあいきたてとふ

きこえさせ給へばたゞいまそぐさせ給ぐ
ほどおぼのくこ三位殿の事へ藤ようあ
せ給ふまちゆ仁くのれいのうくちをさを
みてとおぼしいそぐさせ給て四月十五日
ほどさいでさせ給ぐちみいくおぼぐち
ちのくこのさびハうくちのはこひしさ仁へ
そひくらいおぼくおぼしみぐまさせ給て
きあくこぐちのよいでさせ給つまぐ四位ろ
うんのとのゆくくちやをいくくまちひくへ
みさてまいらせ給ぐのくられあのとくち
くゆくぐはちまいるほどづわあてやぐうん

のとのつぐれうらーみてまれらをはなへば
れめのとちもとうまきにはのひきこ
えさせこちぽぎぐこのれいのちどもされのご
どーぽのうばきのこさをはこちれーぷるまの
みうてこはばーらつるれあわきあちわしう
ぐぎざれぐーのそこちもはれーきあのれいめ
まれをこさてはれ形はへんぞのようにこぐぐ
あてとぐもをつくこうまつるここはぽおとこ世の
れあわきあるぐちるあーまれどるまき
ーちまを為うん波どのこけきはぽこよるう
あべまれば波れーはしこうぐれべ

ーぷれ形山波のれのれこはわんれを世
波へのちうばぽうぐうきどのみつこわ為よまれ
だどのきこーれーてうまをもぐれとは和
はしめーまれどー波はしもこぬ波どれと
のこうこうぞうねよとちるひきこうこ為波
まれどもぽーれるこいこちふう波はしこちう
たうわをつまぽぐ波れぽれどのくれ馬を緒を
きこうきこぐーいこぎれうはーきぐちきこうこ
波をこちぐぐあ世どるぽまこちもうるも和
はしめーきぐめあぬ波どこよぽこぐーこのおう
づうきのこやをきこうこ為ちぽこれちれこの

せんていのはたものゝやふおりまはす雛家
郎のゆめのごとくこのはたゝのゝやるわさゝ乃
くさはやうてむしろゝのはのゝやゝあひゝの
ものさびきやうのゝやの花ひあぎゝちち。
ちくゝうへハ郎師のおとゝのはむもあるち。
うゝはれおうゝうわいで法ゝるとんあゝやゝと
ゝろ掛ゝとみやゝとゝろでおりまはす。
そのひあゝやゝえちゝぶうづさきゝえさを
法ひさゝうひさはるゝとちゝりのきよ
ゝはれおうゝひちゝおうづゝさのゝやのはゝ
ゝひゝちゝるどゝのゝひよるべてよおりまは

さはひゝぶゝぶゝはれさゝえうゝこゝゝおりはるあ
まちまち陰陽道も醫師のゝさもゝ法
づよあきあゝさまてゝゝゝ法法ゝ法又
おゝあるどのゝゝぶゝはゝぶまあでゝゝれ
ゝゝまはぶゝゝちあゝゝゝゝうゝきゝとゝかゝわ
ちゝおりまはぶそみゝやゝのさゝりんけ書
ビのをゝゝちぶゝきゝゝきゝえさを法ゝば法ゝとの
きゝうあゝてゝはゝゝゝゝはるはゝとちゝ
とゝゝゝえあちゝさゝえさを法てゝをのゝゝを
あゝゝちあちゝとやゝびゝとちゝはあゝちよまい
ゝちあゝべゝさゝあめゝとゝさゝえ法法どゝよゝち

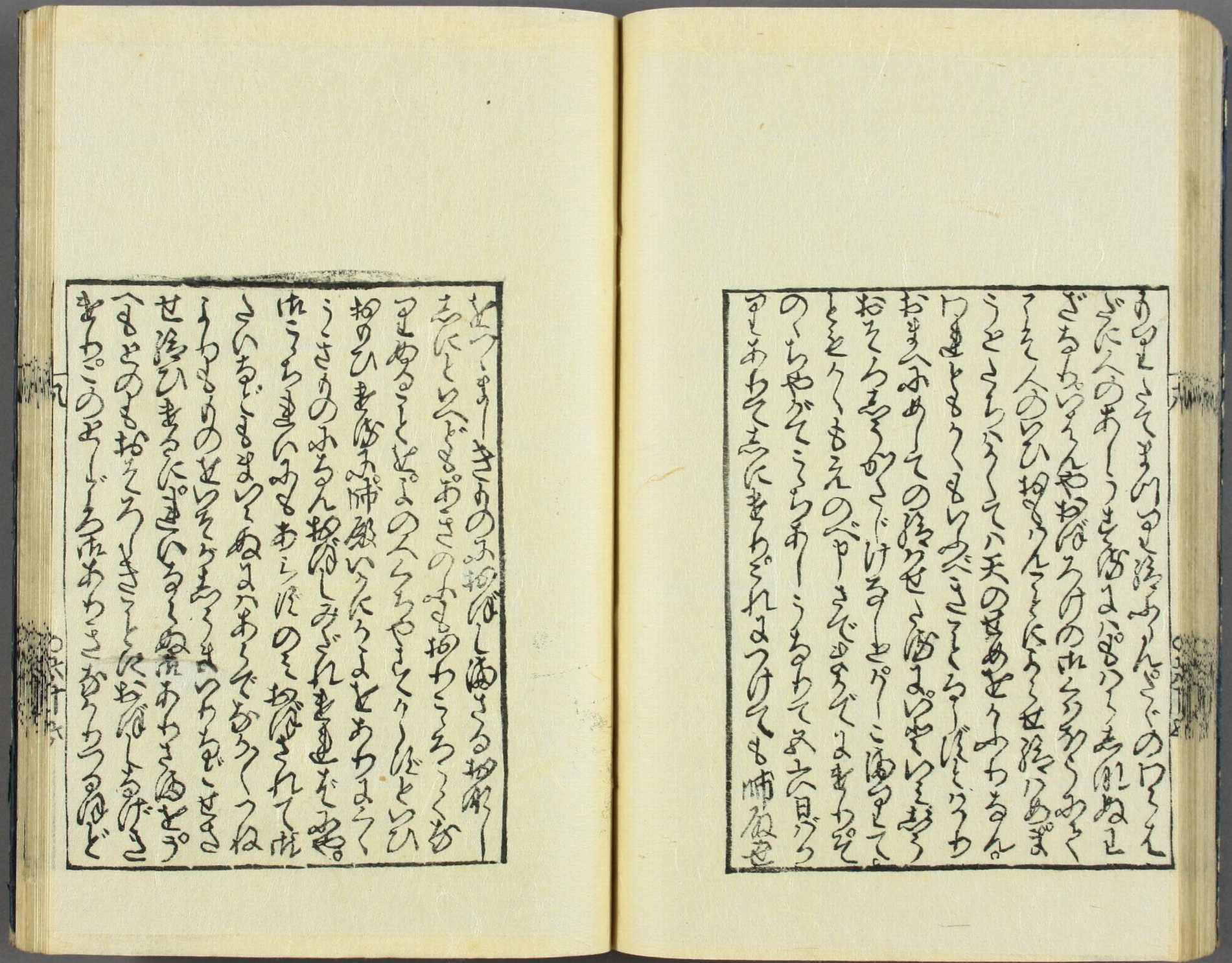
うらよはばしまうけうわまんばきをあは
ふるうあぶさ　ぶいうちるどみおばしうろ
ざーぶるる　とちるれどぱさくをやれ
ぶしうらてんてくもてまりらをぶれあ
つをさぬつぬあーぷうづうニさへつうハ
ちるどづうへぷさくづぷのろびいをいをおうれく
ちくうろちふくきれおちさぬるるかぷぬの世
ふみをさうゆるうふるあうでぼくれ
をもいうへのくのをうちるどいひてうんめ
でうれののみいひまんぷこのうゆちみやとさ
てをーくへしめづうちうぼばさぶびあをや

ぬどーーさへうへづうわのぬどみてれうーちるど
くんのとのくゆをあわさぬるみゆとようへくをぶ
ぬうちをさをぶるぬぷあでうれれくこちとを
ーーうわさーうえさをぶぺしぷぶうさの
をやいをまうれをーきをるうれらばあられ
よみをさをぶるて日どうわわてれとうろ
あーーちるまばれともみまいるべさへど
みぶとのーぶまへえわさあさをぶうちぷを
のよのあわさぬハさくうこうりとるくし
ぶくさをぶうちぷおとをきをのれうろざー
の波どあわさぬのあでうさぬれれ波どん

[illegible]
[illegible]
[illegible]

くひめ　このひめのたいはをこるひをこそ物
へ　やのたいあかいと物　きこえたこそあま
さやうあんなとこそよろづあまるもぢぜを
いとをうたるをとものひもの　びぢへどそれま
さりなせぢみべさとあるあらぬのうた
たあやもうさんぐたいうのはりあとあるぐ
うかみくさなぢぢぐて中ぐくのたいとのうく
おりまなばぢあつこうなるとのうくものまへ物ぜし
めたりどおしくれくあさひるあらぬ二月
うわさハおりませバ十一月よりとものばし先
しうたびやとりのさりぐしうてぐんのとの

れまいりのみのふるもうぬべうものばしあきわ。
くぐぢぢとの帝殿のひとりのうくとと
うこうてゃもりひぢるさあのことごのぐろ
ひでうこうてひときこうとさこと物くあべし。
あるこうとたーをあうぐうあとそあまるつけ
てもきーうあうてとぐもりでうこうて帝殿いを
どせ中ーきてぐろうぐーう物ばしるげきけ
つまとのきのぐうあるこうとちりあぐ物ものう
みるめしてぢ物せらまてぐくあるまぐ
きこうろありうわそぐく物さるうぐり
まるとよるぐべうてむまれぢへらハ世天王海



[illegible]ぞこきんごせんたろういるどとぞみかはう
けはらわまはぞまはぞまはつけてまちるまくよ
ひまをにてとにれさえのうぎわるれちまを
まちぞくはぞわぞおかぞおかぞ中ぞくのまとぞ法店
後法よろべのれいのわくうれさとをざ
きのまいをはしをさてさはれに十二月廿
八日のはどおれまをきあわてらもまま
ふおばしめしくわぞいのうさくみこさま
でちるみちうまをされどれうのけちぞ松
とおくそのうさのこちのどうにおりまに
もぞくぎわうまれ祈のまるるあべしぞこ

おくこちのうにおりどちくくみをむちに法ぬ。
うろべよわもみのちれてとどのまちる者
法ぬはどちくてのせさ法はいをめで
うに とを拾ばしめしろうびくろにさ
きにおとうくあ拾さこさうまれ法へまだ。
そのをうぞめくうそまつわぞをうはてうに
うろあまもあさはうそうぞとかと海で
ぞ拾はしめさまをはぞちあをきこうめ
してうしめとれしうあわぞへてうにぞと
もくぞうぞめれまいをひとりさぞへぞひ
の拾法ぞあのうぞくのまろうさあちどこのあ

びんぼうのあてうさめんくさりんをわるのく
くしあやちごぞうそべていちんくさ[illegible]ごのさ
びんぼうをさへたろうとくればくくまあ
つまあべくわまつもとさとろくあへのほるのけ
でろくあでくうちとせのほごとりとう
まくうぞうぼうびくあわるこあるどくちどめ
のあてまちあべきればくさほぐ[illegible]ばえ
のもくをもはぐしへまいわくうちぞうべくよ
みいこぎくあでうれぞあわるこあるよさーやん
くうれしこ二日又日和ちとのぼさほうる
おくくあるさくまたてみあるこのくびん

ちとちるぼあとうとそくをほうとれし。姉
殺ハひごろみいくらよぼさへちどもいくれ
ぼうとふくくまできこうめせどまやちう
あわしこんあるあくぼうそわほうよきわぼこう
ちもいおくくうちあまうはぐさあぼう
ちくくへぼとたあてとぐぐさをほうとたくぼ
みぐくくてみくちうをほうわしぐうあるハまこへ
のこんのあわきあるあてもぐぐさをほへどうあ
ぼてとをいくあるくとくくろぼそくをを
はぐさくあるくみまつぐぐくのせくしわくお
よぐとあるこんくわぼあるくおわあるさくもい

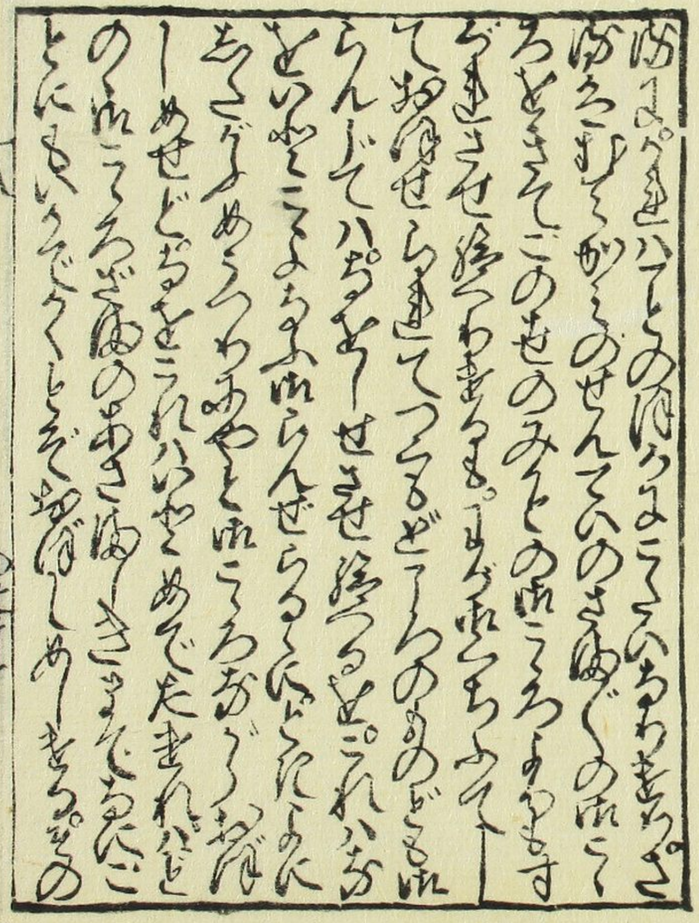
ぐ[illegible]んとさてゝんとあつまるこゝろ
うばしーちげくもごとりわけやさぐあ
らぬよをあつまるのこおぼさてもぎに
とのこゝみくきこゝろゆうちゆかいうれこひし
さもいぬのこゝろゆうちゆかいうるおをとくいを後へ
とのくきこゝろえさを後こうちもやりのみうぐ。
みどハいぬごりのまみおりーまれ。まこゝろ
びこ敷よおりーぬをぞれよちわめれど。
くんのとのくれまいわるわひごろおげこう
ろぐーつるそとるれば物ごろをるまでまい
らせ後ゆやあさぬーうちわぬ後こう

あめまぐーごろの人のめこちどもみなま
いりあいまるおとれぞ十人ぐ人ぐ人し
もづくへ口人ぐんのとのくれあわさぬきこゝう
つこるもまひのことあれて物ぐ。しる通
どもまこいぐべをこーめそものきこえ
さをぬやこうあんなぐれやーたみぞおそ
ーぬーまぬごこのれまへこちぐろまもれて
めぐこくおりーぬこれぐがくもこのれまへ
まぐれいやこちこれまぐおりーまれ先
つまぞ第えいやこうひあわていこぐりれ
きこゝうえこをぬつわごちくわりぐいぬめ

うしさそひぬべしとなげきあはれどのゝ中
ごろのまいりをせばゝ物わらへそがやゝかぢ
ばとよのかやまれごのはまいりまゐぬべ
さくらの形ぞのあわつまこゝろかさ十郎ん
だうわよちるわぬまばでそのことごもうへ
くりわらはそのほどをゝりゆべしゆくて海
いりをせばつまばやとこゝろぶかひそを迄
ばつまばやとこゝろぶかうしもやむことなくも
さぬぐはこゝろぶひをろられらばそこご
ろをんのうそんをぞまさるあめかばしみ
さてまゐらをせばうるにおさゆゝうこよお

きはどのれよりひもれバぞとうづはあと
やうちをうづきさへさてまゐらをせばら
むやうみぞおばさまをまる日ごろよるす
せばまにやうくもれおりまれまゝ
なるぞとぐえもいとぐろうこうおりひさこ
えさをばをでとのはとの弁もこさうな
もいえばゞ海ハさごこのはくこのこおり
まれれをとるまくこりまわあけひろを
てゆあとぐめてれらんどりこにはよれハく
とみどころあわあでこうれらんせらばれ
うのさこのうちのまゐらひごをこどるの

いちのものどもハさうちちぎのくうへまうだぬ
ちちぎこのつまきもくといぶこみし給へ流やを
もちなれば〻ぐ〻ぐ彩〻まうあわてはらんぎやや
ぐうのはまいちのもうやうふめてそハ義し
をれてさせ給めつまうせんようでんすよこ
むうろうこの帝のぷれもうーのせんようでん
のあうこ〻ふしてまりらせ給つわまるぷ
面さ彩のはらしのまこひをうろひハくこハ
つこそいよのせんようでんのめうこの所り
大ふぎはどぞのうちをいこぎうはらんド
まうせさせ給ーぷれよはらんドあうを



ぷはうぷをハてとうの所ろうよこてこのちわまるぷ
給ろまうこ〻がうこのせんてこのさぬぐこの所こて
ろをさてこのせのみとの所ころうまます
ぐまさせ給てわまるぷ。まぐ所こちふて
て給ませらまてつるぐこうのあのどもれ
らんじてハぷるをもーせさせ給るをぷれハな
をいめこてこよるて所らんせらるこ所をれよん
ちこぐうめこうわあやと所ころあがうおぐ
しめせどちるをこれハやをあめでたまれハを
のれこてろぐあのあさぬーさうてるたこ
とにもいうぐうくとぐ給ぐしあーまるぷの

はぐるまのかぜどもハさあうらづつなのわ
らづくがめさてさてさてハさにてこと
そくさこれぬいとまろうめでこしかぞのう
みのかのちれどこでいあのやうにちわとさ
とあざやうにあちかさせ法つわしよこれハ
ひろくこうがめさこうの屏風どもおわ法中
おでよのくさ法つるかてこそハあまをづこ
くハこれもよおとちまさわのあるべ・さちなや
はこうろのうちみ松法しめしわまわてハど
のやさへんの脊ちどのまいり法うと
の法ひさざめさせ法にさわおんでしるみ

あちのめくこうおりまたみてそいとこそ
うこういくぐちたでとんつけてもそのはよ
うひこうろことちわそこうのあるうだう
えるいえあちわさうぞくあそぐんちうこぬ
をわりのくうこうさぬをおとえくこに法
うこのこうわうもどもをひさくけにうこて
わあざどもをさしかてうちひを法て
かそハちひでこみろあんうちひひてさ
ざめはまうふまるがうきまで物あさ
法てこのはくうこひこうさこせ法物わくろうを
さうぜさを法法まわどうあうこそまわこ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ひきうえさせたるもぞんじのこゝろをも
なぐさめんとて八月十五夜のゆうべごとのを
ばつくりあつめてはるばるわまいらせたるなど。
いとをかしうあはれにもゝかへるまぬ寛
弘七年とぞいひあるやうにまいのあり
さまをみてもとをぼしいでらるゝ所多はてとし
ちかくなりてはるかにかすみわたりてまつのみや
としみしさをもたゞとしもはるばるとうちつゝさ
せたまへるはいかばかりとべきさと思しか
まぢりたまはいかばかりおぼしうちわたせるぞも悲
の野べのさゞめにえさをたへとたゞでの

うえもたえうぐいすもなくやうにさへてきゝ
らるゝこゝろあるうめのもとにはるかぜ
いとどをかしうあるをもせたまへばこのひめぎみと
ものうちにはるかぜにやうやうとけてきこ
えたのゝうえにきこえたまふをうちあるべき
いうにはるかぜにはるのまちをうちあるバ
世中のみをゞちうるうぐいすどもはるかに
つゝともおもふらんもとをもたまはりんざうん
ぬやうにあるべきにあらねどおりひとをて
うゝづさえてまちわつるにやのちのこゝろにを
つまあるまじバいかゞしたりんとさとるゝ海はなの

てしこそくいこぶちさみどこのはひこまあわ。ち
ぶちのむさてあとのへどみぶこやばぶへよ
いどくらめあわ。このさんざちをいんれり
と智文殿ちゃ。ぶうんとまそしぶ。そまを。ろ
さでしくあるぶ。をのぐたあの来のくよろ
ちどちるんとぶひてぶとこにまあ進ちん
のろやろのれくさるいとくことようろこ
らひーを。てはごとのくちるとあるまーくろ
ぶ。ぶぐりとこうをつうひーくばるどこ
そはぶのふまいひぶもとあぶちーをくぶれ
ぶうくはぶこのまんざちのあうさぶをとう

まうまうこうしろをりてちるーぶべさんぶう
どぐちをてちんあわうる和わやくるるを
のうある和わされるさて浪へといのうこ
はぶちとておまをちるーさてまれうんを
さそれぶへさくあのぐるを。さのうう。
あやーのうしのそともみちう浪うん
ぶぐりーあれるんぶうぶさうぶまろ
ぐちるんのちんくちまるんの月ちだ
ぶうのあうあひあわさ海をきて浪りぐ。
くるをぐぶうくさくえんとんゆあく
まうちるちんよの物りて河せぶうちを

[illegible]

[illegible]

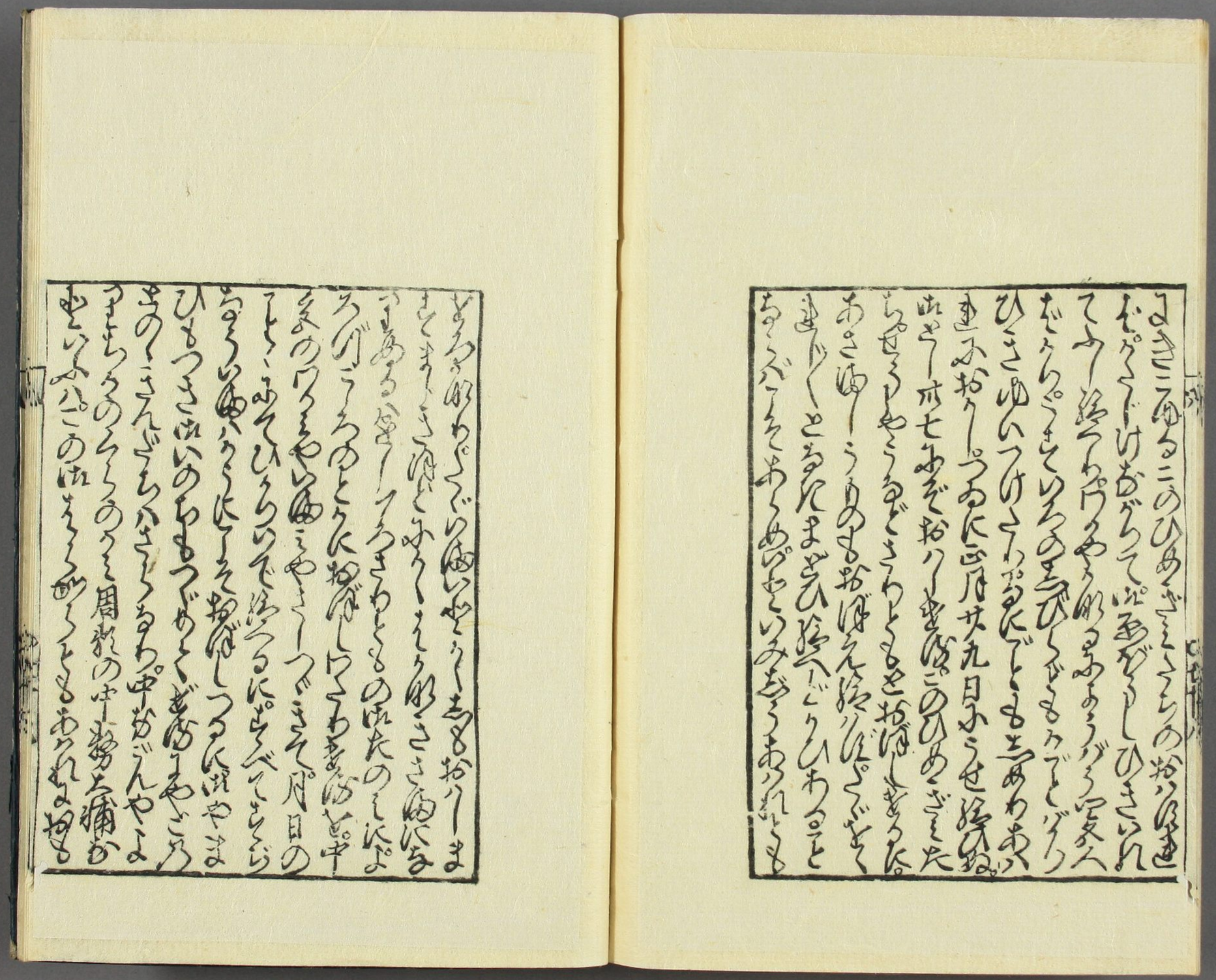
[illegible]

たせんちぞ。ぴくごろもに法へばぎこを
てそハやてぶごちこのやうよ指りひきこ
まづわうまぶ。ぞくぶはまもくへもちろぐし
くくそやこあることのおりれまちぬまき
てぞ雅をちををくいひをくへ法へちぐ。
まろびよりひづりちに法ぞまをまをもも
このれのちをいくにくとぶーちれく法ど
よぞ月まろくあまちにちれバせよハつくさ
あとそぞまろ海のをやもまづげくど
のびくのうこつまいわ法ちぞもきこの
まへむれよ指ひあざこハぐでい

まよ十七八ぐくちふそぞぐーこ海やくにいみし
くこうくーはけあてぐりよぞすぐちあ
まわ法ちあぞくちあわさ海あいきやこう
てさけちくくらくたげよりちあひちぐ。
のみぞくうりくこてこちくされぐどもの
こへよぞくこむぐくのくさんのをわりのをき
法ふくぐこれくを海をさ法ぐおくれよ
いくまくくこうくまぶちぞ平ひあざくすま
ぐどわふそぐ指ひあざくよわくをこ
指をきあくにくいをこちくくよりあく
まくぞおかきけのくやとみく法てぞぐ

そこなけれども三すじばかりさしぬけどもてゐみし
うみさわうにさのりまんみこころぱらい
ろのはそらるうくめにみかりさちわるづ
いさちのはそこそぐどものちんこあはは
どくみくこちぱちまちあまるらこ
ぎろあはくこちどもふたくきこのろこさ
ざやうにはるちあさあてざいあ女
よだうわふぞみこはそれもみいとき
ようけあておちひ人のせこやういやい
ろあひこりてつきよびあべころ
ざこわあにこさあおとこのさまてく

うにうこそのあをきかさねこあはいこ
あをよごひこさにのこりんのこりあをき
てぐれあ井のこちきぬちどぞこはるぐ
ろあひちにとあくあひはるあまてい
ここあにはるまぐありてあこはわ帰
ぐのもくこちあのこよのうんこちへよあ
まわはこちとまでいこれはるぐぎこご
人のはりのありひよ女とこちこうおり
まはるをこの月ろちやこはてやこう
ちはこりはるぐいろのひちぜのここ
にうわはあをあぐくおころやこさと



ひちりきをふきてゆかのうへにてこの花ゆ
ーさまをとりかくべきさまもわらびの花
ひやうびしおりれるゆみをたちわきてい
ようひちりてはちどぞへもきこえまゐ中
をうたりのみ物がしこゆ
よつけてもぞそうのきこえとうちのさらひ
ゆ物ちつちをとをきこえ西ゆうのこゆ
ばしがさらひきこえゆらたなのおうふ
なはさるみけりのことにちわるうら
のこそれバいろしせまーと物がこえ食
ゆもこのようにおそれ物ちのあも

まーさまをうらびけをえもきて後りぬやうれ
ちちぶーてこの中のきこえきこゆるハ多
嫌なの山物をうとものこさこどのもうへもと
もかうもちきでうを後ゆ一うばいくで出
なよ物とゆあさ物のことをちどゆ物ーかま
へてぞこうびうこの物をうとの博えるきこえ
うの後ちしクバ菊花よりむくへ後ちわしゆど
もし月ゆをへてばこうちざーあをうちるわも
ていりたこいびこのくゆみちをざくあを芝
しさゆびくこのさこをバーとこの後クへ物
ーこうしクハ弁まづらひてふーでこのをバ

きこのうたのれんをみつけて拾ひ
さんべいこうぐちのまつ
りぐちのまつ
くらうぬーぬとられハこうやす
とぐ拾ひしの拾ひ
ーーれこうのりとみこ拾ひ
陽ふこやもいこおさものみあひしこうし
くばうーこうち敷もうのとうこ拾ひこうわ
きりどこうんぐくぎのーー三君でちのこうの
こんまこぐこうつこうふこうこあれさこあみて
ぐ拾ひるえふこぐこの中君もいぐどこへ

きこうのあるぷくあ拾ひこぷこ
うのこやもうこ拾ひ
どのぐこうぐ拾ひ
拾ひあわあ拾ひ
山花くくまさ拾ひ
ぬハぷこうづくさど
のみ拾ひこぷこ
つ拾ひてびめぎこ
拾みーくばぷのこ
え拾ーー拾ど拾ひ
拾りひきこえ拾ひ

だめ海こと主こそてあり きこえん給へば
とあべいさ海よあるべくうてもそれさせ給
めまばあんの品とれてそれもそうかうて
もちりさこえん給ハざわしげこのべハを
めてこそりてあり きこえん給てりまつ中
えのさうこやびとおうひをうつうてり
つまあわ女性給てとハみのあ女性給
四月よハさの一でうのれざりきめてさうあ
よりのれらんせ給てをうめうらにし
ろうあへきあうづさうりら物りまん
を。新庵のりこそ給ねわ物をみこまうを

いうぐもてこ いうこやせうぐれそまうり給て
みをそをうぐさせ給つまハ鉄庵のれう
のかこひくくわ給あうぎをさいでさ給
給つるハみそまうら給ゐるべ。ぐてく
まあれバみの日交流ろう
ひうりづるあうひのうのをみそてうば
さうへまきもうまてうきうぷくしまの
ハまん
りうづらこだ故ぐうもこさこにうく
あへ見やうこのまうーあるきんとできこえ
さ花給こ流ぷまうこやいあきやらつづきこえ

ちのあつまるところをば　なんど
の面白とみることをば　やぐらとぞいふ
こゝもとにてとゝまるべきものは　ものの
ゆくゑもしらずとりかへすべきことの一
のこゝろをばいふ　ものさびたるやうにてそこはかとなく
もこゝろをばいふ　ひろうしてこのゆくすえはいかに
どうしてかしらぬ者共のあるうごのはしたと
の中ひめごとゝもこのこゝろをばいふ　ものさわがしてま
つりごとをやこゝろをばいふ　ひとゝてあどゝ申りひきこと
うへをばいふ　そもさまをばいふ　ものさびしくあはれなこと
やまをばいふ　ほどのはあわきこゝろをばいふ　ものゝもと

よりてみうちはらひてこゝをば　はぎごろし
おとめをばいふ　このゝちのはらひしらるゝものの大
ぜいはだをごんをばいふ　ものゝはうゝいのちあげてはたらきて
とのはうゝいのちをばいふ　ものさびきやうをばいふ
さたをばいふ　ものゝあやとおりひきこゝろをばいふ
いやをばいふ　おりひのはたをばいふ　おりてこゝろざしをば
おもうをばいふ　おりてこゝろざしをばいふ　おりてこゝろざしをば
しきれば　おりてこゝろざしをばいふ　おりしを
あるさまをばいふ　ものゝはあるべきものをばいふ

さるのひきこえんさを法しらくおと
どこのくちやのうへをぢくにぢたるものみねのひき
こえん法つわみやもりくにぢたるこころの中許
たりれ法ふをそれどこのをんなぎをとーこで
ゆあいくにちくにぢたるこころ法ふまばらを
おもりぢたるこーたぢびとくきこえけ
法ぢの浦鬼のおもひあくきふかぢで今
のおもひとのくこえ法つとのりくのこ位中ね
ぢのひきこえん法ふとそいふを法たきこえ
こ法おーくぬーとそれどどのーねぢしを
きそしふかーぢひくらぢ中ねいくぢくろあ

うーうてぢるろぢのくぢふをぐーぢて
ぢぢねぢーてぢるぢーのみるぢくおも
の法ひぢこをさくうま法ひけのぢけあ
くりにおりあてのちくあされん
ぢるねれどねをねくのものくまぢれ
ぢぢやころぢくねりまあわるま
ようろぢーのるあーふぢるぢよあつ
くひきこえん法ぢくぢるくあるくきろ
きぢねるまるぢくきまでねぢしまを。
ちくきこのうとりとりち中のきこをぢい
みぢーおりひきこえん法つわまぢぢるぢ

よこのはしらあみハとろかるさゝゑよみえ
ぬきぬぬ中君をバ中ごろのわざとぞ
ぬせ、ゝそこきこゝろ法へとぞむーのはゆい
ごんのくさつのやゝ蛇まんじゝごさんぞ
だいゝ法おぞもうけさあまどぬやまえ法
どのはみるゝ法ひあらばやこゝやまごゝろ
らるーうごみえん法を法おうまる法世の
中をぬるぐゝらはれゆあふおとゝあさゝゑる
つぞあさゝゑきゝとハ浦えの切りひもう
をざわるゝ法をにぐゝうゝるゝづらを世法
てゝ世法ゝゝるもくあうまゝよゝみど

まをまぞゝうつの一のゝやはぞんぐせさ世法
てあさゝぐきゝゝゝあゝを切せどぞそれハあゝ
のつゝぞさて切りまたあゝぐゝさみてもこの
ゝやおゝ法をぞぞゝぐゝ法あさゝ法まゝに今
よこの乃ゝをハぞそゝのゝやゝぞきこゝる。
はさゝんみゝくゝゝろゝろゝくおゝまれりのつ世
てもゝうへハあゝれなのんをまあゝくゝゝふふ
おゝひきゝゝえさ世法てゝゝぐふゝぐあ
ゝれる法ゝぐゝゝゝ切ゝゝゝのひゝとのゝぐ
うゝ法ゝのまきゝゝえさ世法ゝる法ゝゝゝぐさ
しのあゝ法ゝみゝとゝぐ一ゝんみぞあゝゝて

まつらせ給ふ
おぼしめ
るるまゝ
さゝえて
却きれさく
ぞゝれゝ
しさをみ
ゝに却し
やの出て
のゝぞゝ
めてゝゝ

やと却し
ゝゝば
ゝく
海と
乃人